

芦田川水系河川整備アドバイザー会議

芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】 (変更) の点検

令和7年10月24日

国土交通省 福山河川国道事務所

目 次

1. 河川整備基本方針・河川整備計画とアドバイザーハイ会議の目的	2
2. 芦田川流域及び河川の概要	3
2-1. 流域の概要	4
2-2. 歴史的な治水の経緯	5
2-3. 主な洪水とこれまでの治水対策	6
2-4. 河川環境・河川空間の利用・水質の現状	7
3. 社会情勢の変化	9
3-1. 土地利用、人口・資産等の変化	10
3-2. 近年の災害の発生状況等	11
3-3. 近年洪水の概要（令和3年8月出水）	12
4. 地域の意向（要望事項、地域との連携）	13
5. 芦田川水系河川整備計画の概要	15
5-1. 基本理念と対象区間	16
5-2. 整備目標と実施内容	17
5-3. 主な整備予定箇所	18
6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し	19
6-1. 治水事業	20
6-2. 水利用と渇水時の対応	22
6-3. 自然環境の保全	23
6-4. 河川空間の利用	24
6-5. 河川水質の保全（改善）	26
6-6. 河川の維持管理等	27
6-7. 危機管理体制の強化（減災対策協議会）	28
6-8. 危機管理体制の強化（水害タイムライン）	29
6-9. 河川情報の共有化、河川に関する学習支援	30
7. 河川整備に関する新たな視点	31
7-1. 流域治水への転換	32
7-2. 芦田川水系流域治水協議会	33
7-3. 芦田川水系流域治水プロジェクト	34
7-4. 流域治水の推進（流域治水プロジェクト）	36
7-5. 流域治水の推進（流域治水の広報）	37
8. 点検結果のまとめと今後の進め方	38

1. 河川整備基本方針・河川整備計画とアドバイザー会議の目的

1. 河川整備基本方針・河川整備計画とアドバイザー会議の目的

河川整備基本方針・河川整備計画

○河川整備基本方針

長期的な河川整備の目標を定める

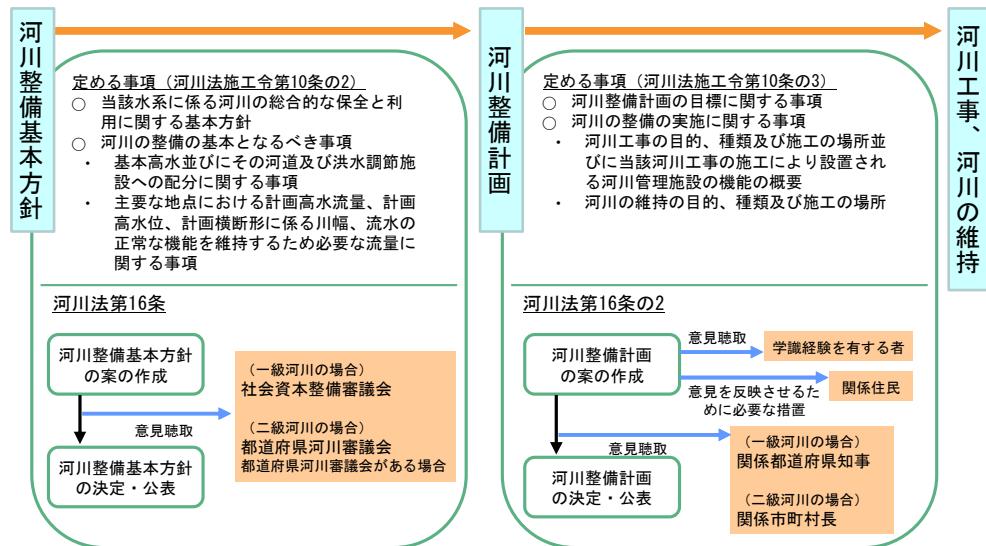
芦田川水系河川整備基本方針：平成16年6月策定

○河川整備計画

河川整備基本方針に沿って中期的な具体的な整備の内容を定める（計画対象期間：概ね20～30年）

芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】：平成20年12月策定

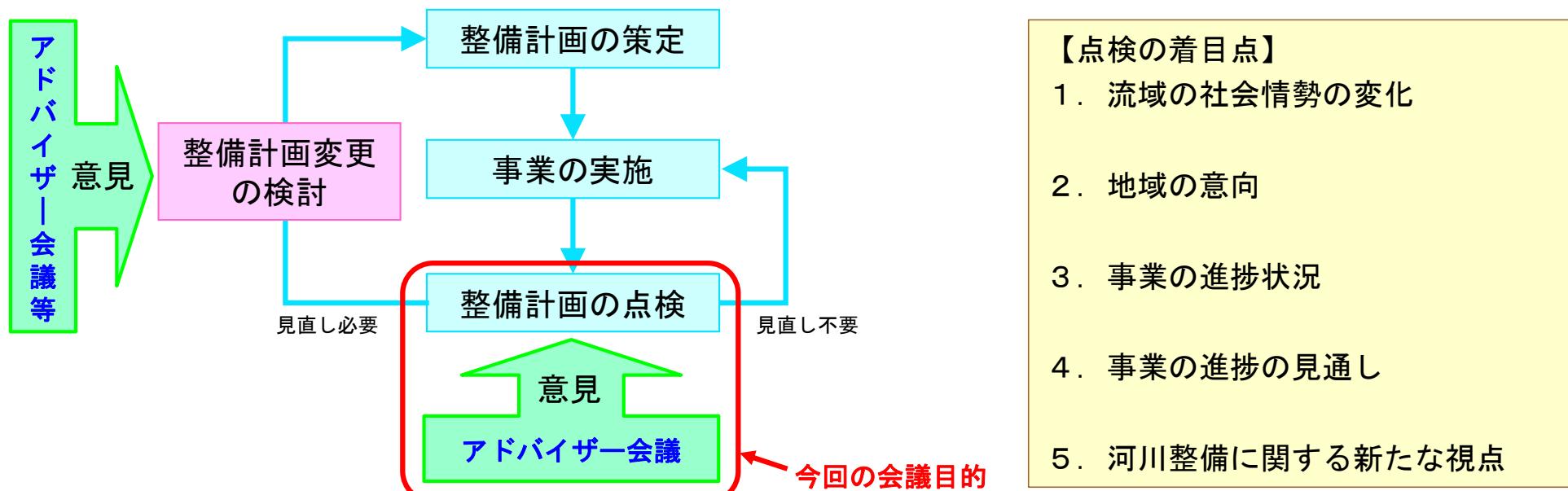
芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）：令和2年12月策定（計画対象期間：概ね30年間）



河川整備基本方針・河川整備計画策定に係る流れ図

アドバイザー会議の目的

河川整備計画は、流域の社会情勢の変化や地域の意向等を適切に反映できるよう適宜その内容について点検を行い、必要に応じて変更



整備計画の点検・見直しフロー

2. 芦田川流域及び河川の概要

2. 芦田川流域及び河川の概要 2-1. 流域の概要

- 芦田川水系は瀬戸内式気候に属し降水量が少なく、全国平均の7～8割程度。
 - 上流域は台地、下流域は沖積平野が発達しており、福山市、府中市を中心とした市街地が広がる。
 - 大臣管理区間の河道内には多くの床固等の横断工作物が設置されている。
 - 流域の地質は、総体的に花崗岩で覆われており、花崗岩は風化すると“まさ土”となることから土砂供給ポテンシャルを有している。

流域及び氾濫域の諸元

- | | |
|--------------|--|
| ■ 流域面積 | : 860km ² (広島県の約10%) 【13水系中10位】 |
| ■ 幹川流路延長 | : 86km (大臣管理区間 芦田川: 43.0km、高屋川: 7.6km) |
| ■ 流域内人口 | : 約26.8万人 【13水系中7位】 |
| ■ 想定氾濫区域面積 | : 105.9 km ² |
| ■ 想定氾濫区域内人口 | : 約28.4万人 |
| ■ 想定氾濫区域内資産額 | : 約6.2兆円 |
| ■ 土地利用 | : 山林等 89%、農地9%、市街地 2% |

出典：河川現況調査（H22）

流域図



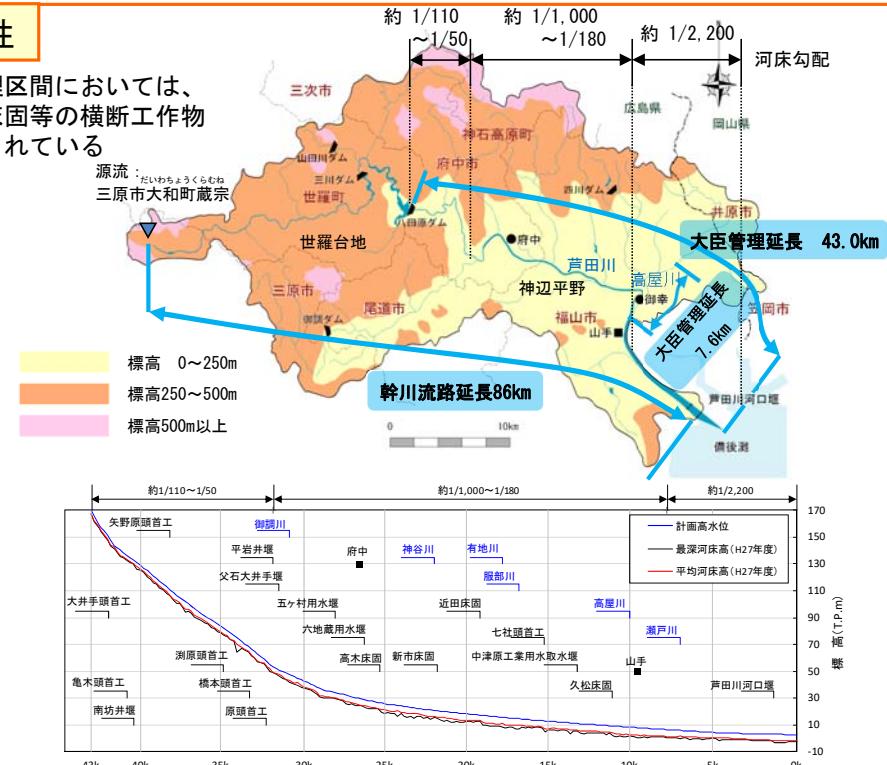
降雨特性

- 芦田川流域は、降水量が少ない瀬戸内式気候に属し、降雨は梅雨・台風期に集中
 - 年間降水量は、平均1,260mm程度
(全国平均の7~8割程度)



地形特性

- 大臣管理区間においては、多くの床固等の横断工作物が設置されている



地質

- 総体的に花崗岩で覆われており、土砂供給されやすい



2. 芦田川流域及び河川の概要

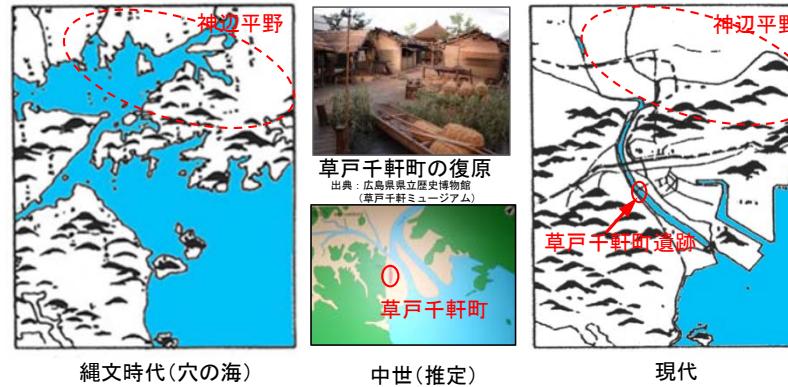
2-2. 歴史的な治水の経緯

- 縄文時代には芦田川流域は神辺平野一体に海水が入り込み、かつては穴の海といわれた。鎌倉時代から室町時代にかけて、河口に港町が栄えた（後に草戸千軒町と呼ばれる）。
- 江戸時代には水野勝成公により河口デルタの開発が行われ、さらに洪水に備えて砂土手を築く等の治水対策が行われ今日の芦田川の基礎がつくられた。
- 大正8年7月の大洪水を契機に大正12年から鷹取川を廃川敷地とし、川幅を広げ洪水流下を図る直轄工事を開始、昭和36年に完成した。

縄文から中世まで

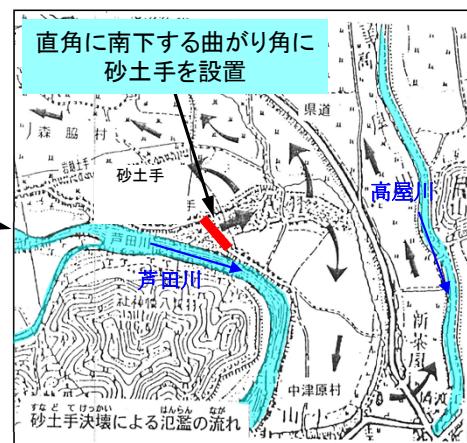
・芦田川流域は神辺平野一帯に海水が入り込み穴の海といわれたが、芦田川の土砂によって平野が形成された。

・中世（鎌倉～室町時代）には、河口に港町が栄えた（後に草戸千軒町と呼ばれる）。江戸時代には町として廃れたが、芦田川の河床に全国でもまれな中世都市の遺跡が保存されている。



江戸時代(1619年)頃の水野公による改修

- ・芦田川の治水工事が始めたのは江戸時代である。
- ・水野公により府中市から南側の山寄せに蛇行していた川筋を一直線にして東に付け替え、中津原付近で直角に南下する川に改修が実施された。河川の曲がり角には砂土手を設置、城下町を守る仕組みが設置された。



出典：「芦田川の昔話について」

大正から昭和にかけての直轄改修工事

・堤防の決壊による氾濫が続き、大正8年7月に大洪水が発生



・大正12年に府中市以南で直轄改修工事が開始、工事は昭和20年に中止



・直後の枕崎台風で府中市周辺に未曾有の被害が発生



・昭和36年に完成



出典：「芦田川の昔話について」

2. 芦田川流域及び河川の概要

2-3. 主な洪水とこれまでの治水対策

- 治水対策は大正8年7月洪水を契機に大正12年から直轄改修事業を開始し、昭和56年には芦田川河口堰、平成10年には八田原ダムが完成。
- 平成16年6月に河川整備基本方針を策定、平成20年12月に河川整備計画を策定。
- 平成30年7月には基準地点山手において計画高水位を超過する洪水が発生したことを踏まえ、令和2年12月に河川整備計画(変更)を策定。

主な洪水と治水事業

- 芦田川においては、過去概ね30年に一度の頻度で大きな洪水被害が発生

発生年月	主な出来事(災害、計画、事業)
大正8年7月	梅雨前線による洪水発生 (治水事業計画の契機となった洪水)
大正12年4月	芦田川の直轄改修工事開始(府中町～河口) (神島地点:計画高水1,950m ³ /s)
昭和20年9月	枕崎台風による洪水発生(3,200m ³ /s:氾濫戻し流量)
昭和40年7月	梅雨前線による洪水発生(1,360m ³ /s:実績流量)
昭和42年6月	芦田川・高屋川が一級河川に指定される
昭和43年2月	工事実施基本計画策定
昭和44年4月	芦田川河口堰建設事業着手
昭和45年3月	工事実施基本計画流量改訂 (神島地点:基本高水3,500m ³ /s、計画高水2,800m ³ /s)
昭和47年7月	梅雨前線による洪水発生(1,650m ³ /s:実績流量)
昭和48年4月	八田原ダム建設事業着手(実施計画調査開始)
昭和51年	高屋川の河道整備着手(昭和51年の出水を契機)
昭和56年6月	芦田川河口堰完成
昭和60年6月	梅雨前線による洪水発生(1,619m ³ /s:実績流量)
昭和63年3月	工事実施基本計画部分改訂 (計画高水位、計画横断形、堤防高の部分改訂)
昭和63年	高潮対策事業着手
平成4年	草戸千軒掘削事業着手
平成6年6月	工事実施基本計画部分改訂 (ダム名記載の部分改訂 上流ダム→八田原ダム)
平成7年	堤防耐震対策着手
平成10年3月	八田原ダム完成
平成10年10月	台風10号による洪水発生(1,530m ³ /s:実績流量)
平成16年6月	芦田川水系河川整備基本方針策定
平成20年12月	芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】策定
平成30年7月	梅雨前線による洪水発生 2,390m ³ /s(実績流量)、2,840m ³ /s(氾濫戻し流量・ダムなし)
令和2年12月	芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】(変更)策定

※表中の氾濫戻し流量、実績流量については、山手地点流量を示す。

主な浸水被害



主な治水事業

- 主な治水事業として、河口堰、堰改築、河道掘削、八田原ダム、築堤等を実施



2. 芦田川流域及び河川の概要 2-4. 河川環境

■芦田川水系は、瀬や淵による複雑な流れがみられる上流区間から、大規模な干潟が形成される河口域まで、河口域～上流区間ににおけるそれぞれの特徴に応じた、多様な生物の生育・生息環境を有している。

生物の生息・環境に関する現状

上流区間

- 流れの速い早瀬と淵が連続し、交互に流れしており、山地河川の様相
- 峽谷部ではネコヤナギやサワヒメスゲ等の渓谷特有の植生が生育しているほか、渓流域を越冬地とするオシドリ等が生息
- 河川内は緩流域に生息する種のほか、早瀬に生息するアユ等もみられ、川底が石礫の箇所ではカゲロウ類やトビケラ類が生息
- 河口から約43kmに位置する八田原ダム周辺にはアカマツが群生し、貴重な昆虫であるギフチョウも生息



オシドリ

中流区間

- 多くの支川が合流するほか、背後のなだらかな山々と河川沿いの平野によって盆地地形を呈し、瀬と淵が交互にみられる
- 水際や中州にはオギ、セイタカヨシ等に加え、サギ類の営巣場所となるヤナギ群落が生育している他、カワヂシャ、ミゾコウジュ等の湿性植物が生育
- また、水際部ではキイロヤマトンボが生息
- 河川内は瀬や淵を利用するアユ、カワムツ、アカザ等が生息
- 堤内地より流れ込む水路周辺では、アマガエル、ヌマガエル等の両生類やカナヘビ、シマヘビ等の爬虫類が生息



カワヂシャ



カワヂシャ拡大



アユ

下流区間

- 流れが穏やかで、中州や寄州が発達し、砂質の河原が多く見られる
- 堤内地の市街化が進み、高水敷は人為的な改変がされているものの、寄州や中州にヨシ、オギ、セイタカヨシ等が生育、オオヨシキリの営巣場所
- 中州周辺の流れが穏やかな場所にミナミメダカやナゴヤサナエ、キイロヤマトンボの流速の緩やかな環境を好む種が多く生息
- また、水際付近ではミゾコウジュ等の湿生植物が生育



セイタカヨシ群落



ミナミメダカ

河口堰湛水区間

- ゲンゴロウブナ等の止水域を好む魚類が多く生息するとともに、カモ類等の集団分布が多く見られる
- 芦田川河口堰湛水域内は流れはほとんどなく、ミナミメダカ、ヤリタナゴ等の止水域を好む魚類が多く生息し、カモ類が越冬場所や採餌場所として利用
- 高水敷は人工草地や人工裸地が大部分を占めている



カモ類の集団分布



ヤリタナゴ



河口域

- 河口域には、左右岸に大規模な干潟（砂泥質）が発達しており、瀬戸内海では減少傾向にあるスナガニ、ハクセンシオマネキやトビハゼ等の干潟特有の種が多く生息、またサギ類やシギ類の休憩の場にも利用
- 冬季には水際部をユリカモメ、ハジロカツツブリ等が越冬場所として利用
- 堤外地はまとまった植生はみられないが、アオバハゴロモ、ホシハラビロカメムシ等の草地性の種が多く生息



河口域に広がる干潟



ユリカモメ



トビハゼ

■芦田川水系は、上流区間では渓谷環境や八田原ダム周辺の設備利用、中流区間では瀬淵環境からなる河川環境の利用、下流区間では芦田川かわまち広場をはじめとした河川空間の利用、河口堰湛水域～河口域では河口堰の水面のスポーツ利用や干潟部の市民利用等、多種多様の目的で利用されている。

■水質は、国・自治体・地域住民等流域全体の水質改善の取組みにより、近年は環境基準に近い値まで改善している。

河川空間の利用に関する現状

上流区間

- 河佐峠を代表とする自然が作り出した景観が存在
- 八田原ダム周辺には夢吊橋や芦田湖オートキャンプ場が整備されており、多くの利用客が訪問



河佐峠周辺での水辺利用



夢吊橋

中流区間

- 広い高水敷や河川敷に整備された公園やグランド等を活用して地域のイベントやスポーツを実施
- 瀬や淵の連続した河川景観が形成



河川敷を活用した地域のイベント
(とんどい行事)



連続する瀬と淵

下流区間

- 芦田川かわまち広場をはじめとした多目的広場、公園、運動広場等に利用
- 地元小学生等を対象として水質関係や芦田川に生息する魚などと触れ合う環境学習を実施



かわまち広場でのスケートボード



河川環境学習

河口堰湛水域～河口域

- 芦田川河口堰の湛水域間では、ボート競技等の水上スポーツや高水敷を利用した福山かわまちトライアスロン、花火大会などが開催
- 河口域の広大な水面のほか、芦田川河口堰、河口大橋と合わせて特徴的な景観



ボート競技
(R7高校総体)



トライアスロン



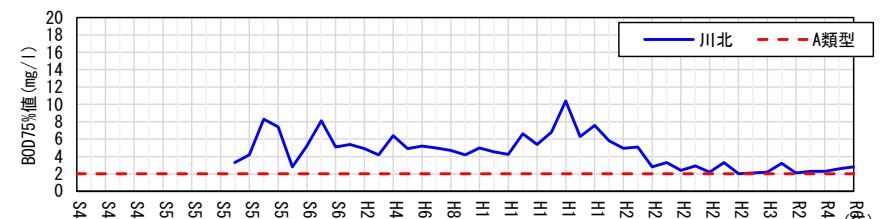
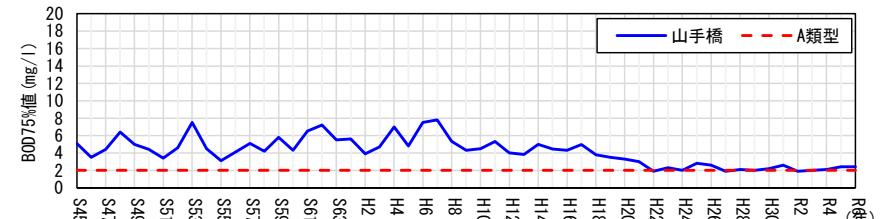
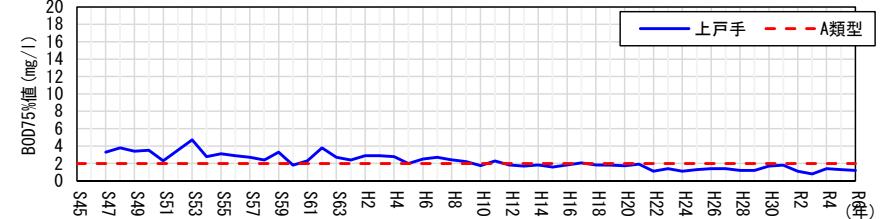
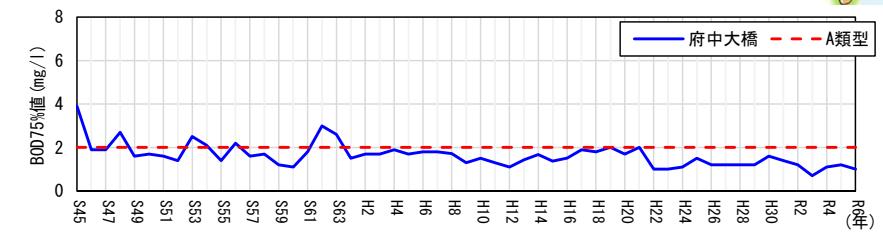
あしだ川花火大会



芦田川河口堰

水質に関する現状

- 芦田川水系の本川・支川の水質は、過去に環境基準を大きく超過していたが、国・自治体・地域住民等流域全体の水質改善の取組みにより、近年では環境基準に近い値まで改善

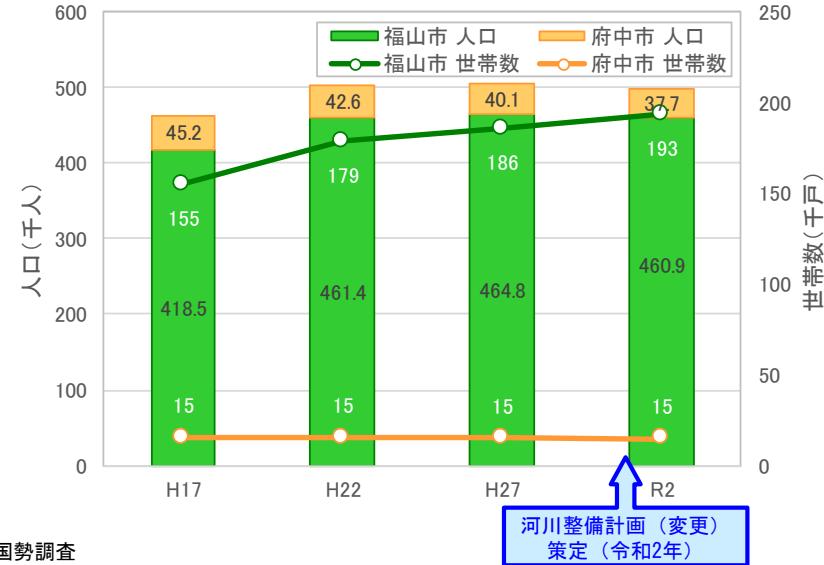


3. 社会情勢の変化

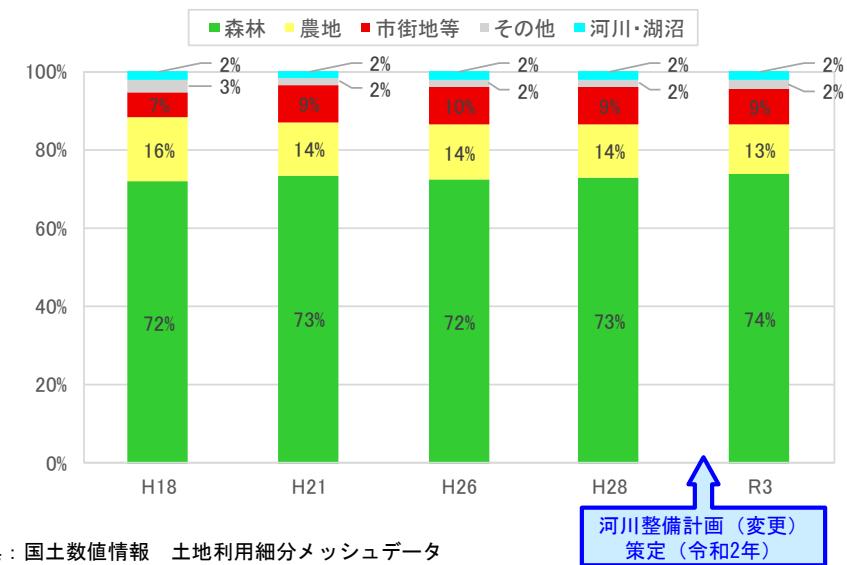
3. 社会情勢の変化 3-1. 土地利用、人口・資産等の変化

- 大臣管理区間沿川の福山市、府中市の人口・世帯数は、府中市でやや減少傾向にあるものの、福山市で増加傾向、全体で横ばいである。
- 土地利用状況は、大きな変化は見られない。
- 製造品出荷額は平成17年から増加後、令和2年に減少、事業所数はやや減少傾向にあるものの、従業者数に変化は見られない。

人口・世帯数



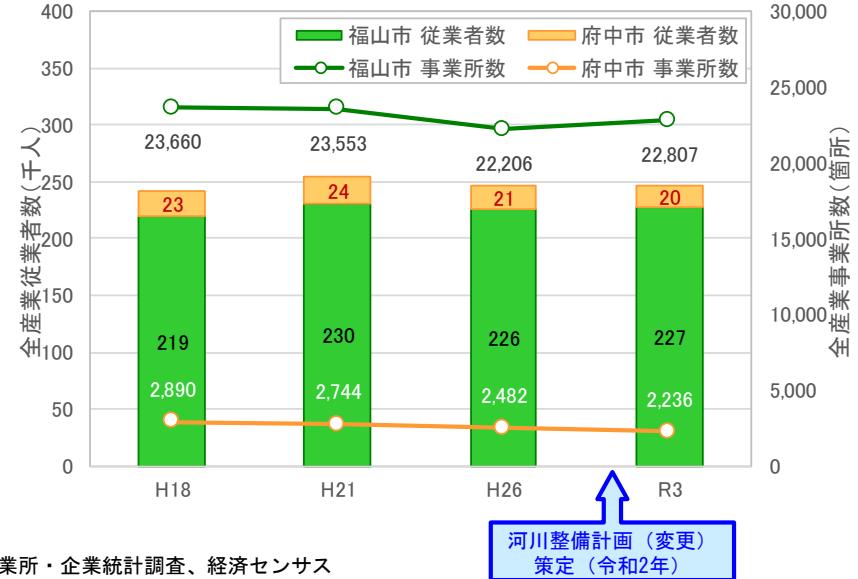
土地利用状況



製造品出荷額等



事業所・従業者

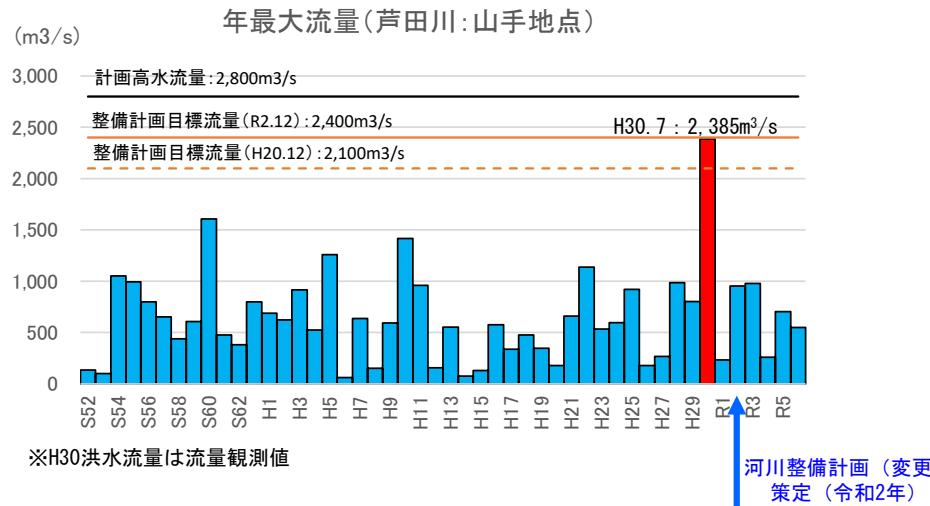


3. 社会情勢の変化 3-2. 近年の災害の発生状況等

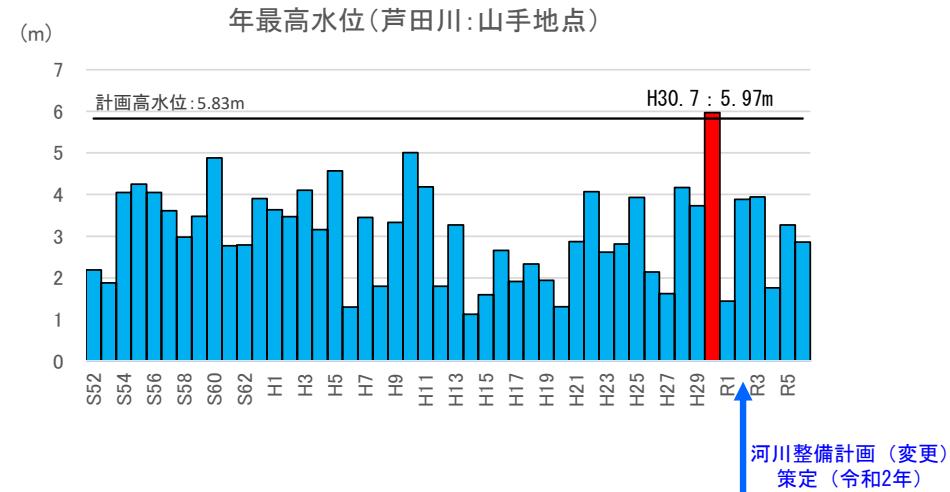
- 平成30年7月洪水では、河川整備計画（当初）の治水目標である平成10年10月洪水、昭和20年9月洪水を超える規模の洪水となり、山手水位観測所（芦田川）では計画高水位を超える観測史上最高水位を観測した。
- 令和2年12月に河川整備計画（変更）策定以降、平成30年7月洪水を上回る洪水は発生していない。

芦田川の年最大流量・年最高水位状況

■山手地点の年最大流量

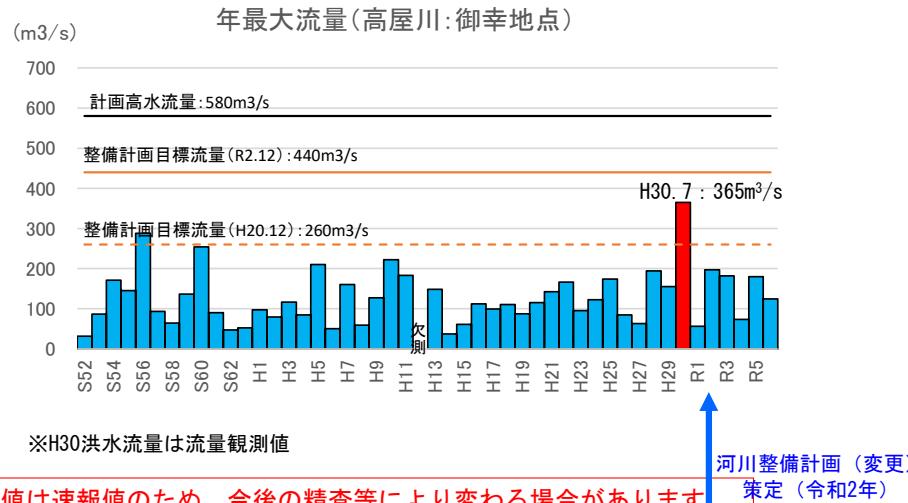


■山手地点の年最高水位

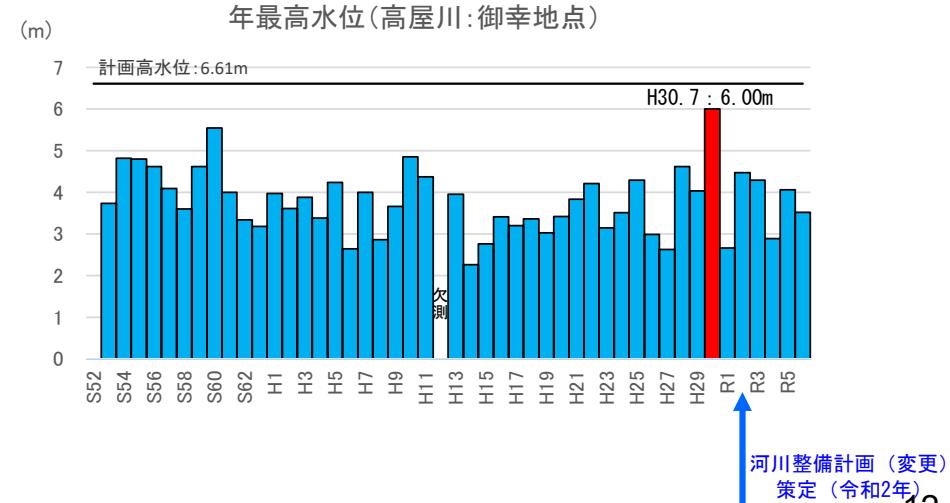


高屋川の年最大流量・年最高水位状況

■御幸地点の年最大流量



■御幸地点の年最高水位



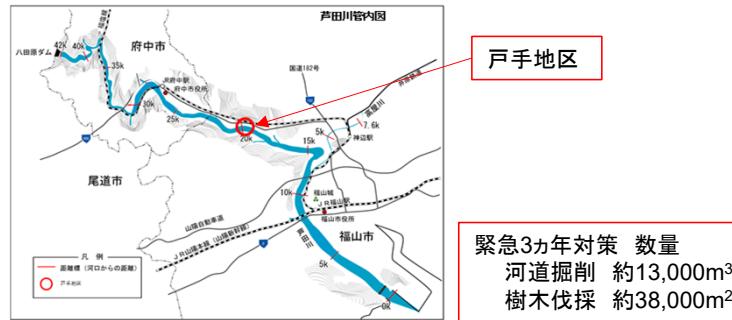
※R6数値は速報値のため、今後の精査等により変わる場合があります

3. 社会情勢の変化

3-3. 近年洪水の概要（令和3年8月出水）

- 令和3年8月12日からの大雨により、総雨量が平成30年7月豪雨の389mmに迫る329mm（山手地点上流域平均雨量）を記録し、矢野原水位観測所（広島県府中市河佐町）では、避難判断水位を超過。
- 平成30年7月豪雨を受けて緊急3ヵ年対策として実施した福山市戸手地区の河川改修（樹木伐採、河道掘削）により、約30cmの水位低減効果を確認、これにより浸水被害の防止に寄与。

河川改修（樹木伐採、河道掘削）実施箇所



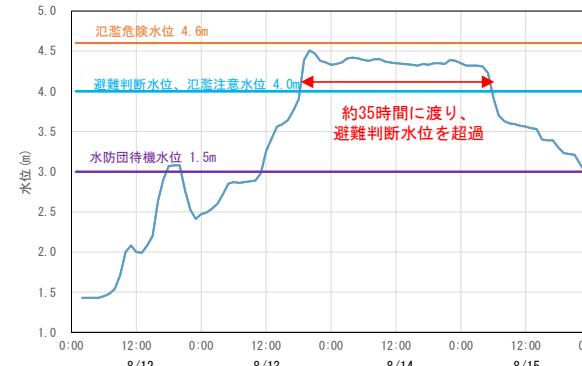
改修前



改修後



出水状況（水位、現地状況）

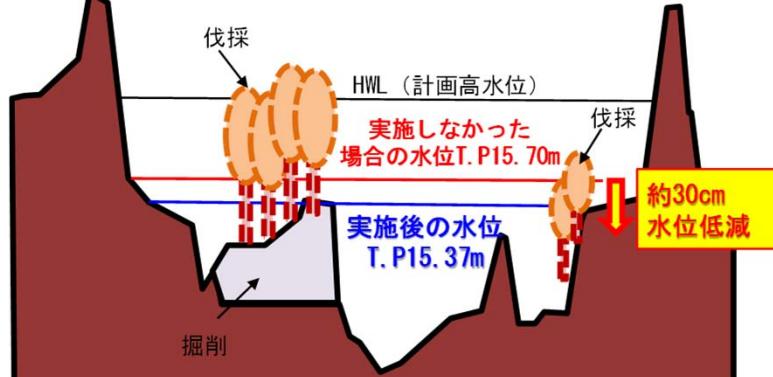


令和3年8月14日 5:30頃CCTV画像
府中地点 流量 約530m³/s時
(ピーク流量 約570m³/s 8月14日20:40)

水位低減効果イメージ

【芦田川19k600横断図】

約30cmの水位低減



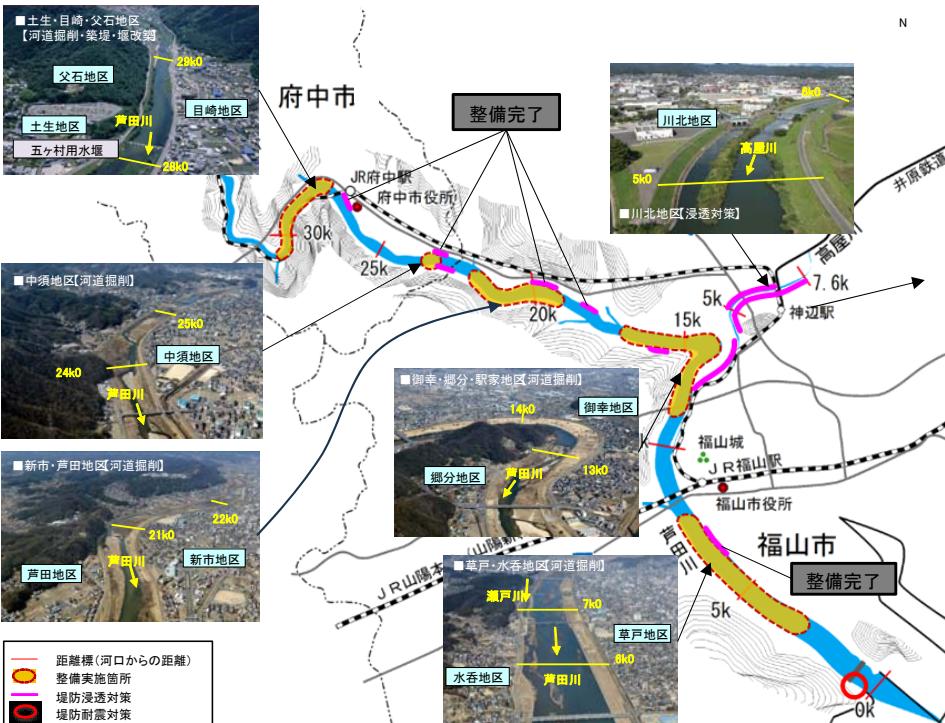
4. 地域の意向（要望事項、地域との連携）

4. 地域の意向（要望事項、地域との連携）

- 沿川自治体である福山市、府中市等から、事業促進に対する要望活動が、毎年行われている。
- 自治体や地域住民と連携した公募伐採、市民、環境団体及び行政等が連携した芦田川環境マネジメントセンターと芦田川や高屋川の水環境の改善に向けた取り組み、河川清掃活動などが行われている。

地域の要望事項

時期	自治体名等	要望内容
令和7年6月、10月	福山市	・河道掘削 ・堤防の浸透対策
令和7年10月（予定）	備後地区建設促進協議会	・河道掘削 ・堤防の浸透対策、耐震対策
令和7年7月、10月	中国治水期成同盟会連合会 (福山市、府中市)	・河川整備計画に基づく樹木伐採や堆積土砂撤去の継続 ・早期堤防整備、堤防の浸透対策、耐震対策
令和6年6月、10月	福山市	・河道掘削 ・堤防の浸透対策
令和6年10月	備後地区建設促進協議会 (福山市)	・河川整備計画に基づく樹木伐採や堆積土砂撤去の継続
令和5年7月、10月	中国治水期成同盟会連合会 (福山市、府中市)	・河川整備計画に基づく樹木伐採や堆積土砂撤去の継続 ・堤防の浸透対策、耐震対策が必要な箇所における整備実施



地域との連携



公募伐採の実施状況



芦田川環境マネジメントセンターの活動状況

河川の清掃活動



清掃活動の様子（令和7年6月1日）：芦活部

一斉清掃（令和6年6月2日）

5. 芦田川水系河川整備計画の概要

5. 芦田川水系河川整備計画の概要 5-1. 基本理念と対象区間

計画の趣旨・計画策定年月・対象区間・対象期間・基本理念

計画の趣旨	本計画は、河川法の三つの目的である 1) 洪水、高潮等による災害発生の防止 2) 河川の適正な利用と流水の正常な機能の維持 3) 河川環境の整備と保全 が行われるよう、河川法第16条の2に基づき、「芦田川水系河川整備基本方針」に沿って実施する河川整備の目標及び河川工事、維持管理等の内容を定めたもの。
計画策定年月	令和2年12月
対象区間	芦田川水系の国が管理する区間
対象期間	概ね30年間
基本理念	<p>【人々が安全・安心に暮らせる芦田川に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水に対して被害を防止又は軽減できるよう、ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に進める。 <p>【ふるさとの豊かな暮らしを支える芦田川に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八田原ダム・芦田川河口堰による水の補給と関係機関との協力により、生活・産業に必要な水の安定的な確保に努める。 <p>【ふるさとの豊かな自然と歴史をはぐくむ芦田川に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用しやすい河川空間を整備するとともに、川らしい自然環境の創出を目指す。 <p>【人々が集い、水にふれ、親しめる芦田川に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚類のへい死や異臭の発生、アオコ等の藻類の異常発生等によって、施設管理や空間利用に支障をきたさないように、良好な水環境の確保に努める。 <p>【安全・安心な暮らしが持続可能な芦田川に】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に芦田川の持つ機能が適切に発揮できるように、適正な維持管理を実施する。

河川名等	上流端	下流端	延長(km)
芦田川	左岸：広島県府中市久佐町字ツカ丸286番の50地先 右岸：広島県府中市諸毛町字永野山3271番の2地先	河口まで	43.2
高屋川	左岸：広島県福山市神辺町字平野小字古市173番の2地先 右岸：広島県福山市神辺町大字川北字古市1808番の3地先	芦田川への合流点	5.85
八田原ダム	芦田川 広島県世羅郡世羅町大字伊尾字の場2452番の1地先の県道橋下流端	左岸：広島県府中市久佐町字ツカ丸286番の50地先 右岸：広島県府中市諸毛町字永野山3271番の2地先	10.0
	宇津戸川 左岸：広島県世羅郡世羅町大字宇津戸字観音平228番の1地先 右岸：広島県世羅郡世羅町大字宇津戸字古見山230番の141地先	芦田川への合流点	2.1



芦田川水系河川整備計画の計画対象区間

5. 芦田川水系河川整備計画の概要 5-2. 整備目標と実施内容

- 芦田川では、芦田川水系河川整備基本方針（平成16年6月）に即した段階的な整備目標及び実施内容として、平成20年12月に芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】を策定。
- 平成30年7月洪水では、基準地点:山手において観測史上最高の水位を記録し、当初河川整備計画目標流量を超過したことや近年気候変動の影響に伴う水災害の頻発化・激甚化を鑑み、令和2年12月に芦田川水系河川整備計画【大臣管理区間】（変更）を策定。

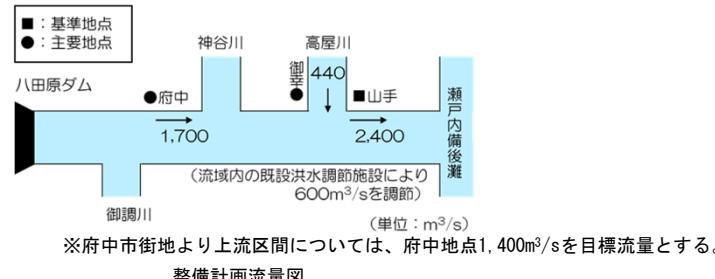
洪水・高潮等による災害の発生の防止又は軽減

■人々が安全・安心に暮らせる芦田川に

- ・洪水に対して被害を防止又は軽減できるよう、ハード対策とソフト対策を一体的かつ計画的に進める

【洪水氾濫対策】

- ・府中市街地より下流部 : H30.7豪雨と同規模の洪水に対し、浸水被害の防止を図る
- ・府中市街地より上流部 : H30.7豪雨と同規模の洪水に対し、家屋の浸水被害の防止を図る



整備計画流量図

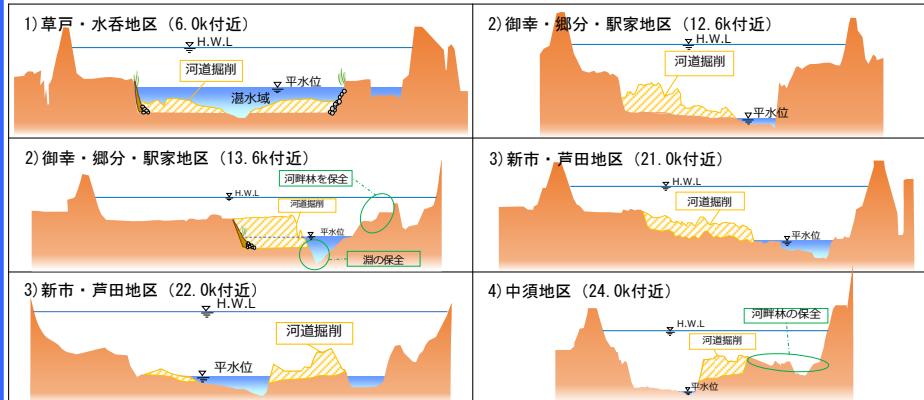
【施設の能力を上回る洪水への対応】

- ・ハード対策とソフト対策を推進し、人命・資産・社会経済の被害を最小限とする

【洪水氾濫対策】

- ・河川管理施設の被害の防止又は軽減を図る

- ・河道掘削（草戸・水呑地区、御幸・郷分・駅家地区、新市・芦田地区、中須地区）
- ・河道掘削・築堤・堰改築（土生・目崎・父石地区）
- ・堤防の浸透対策
- ・地震・津波対策
- ・防災活動拠点の整備
- ・より効果的なダムの有効活用方策等の検討



河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

目標

■ふるさとの豊かな暮らしを支える芦田川に

- ・八田原ダム・芦田川河口堰による水の補給と関係機関との協力により、生活・産業等に必要な水の安定的な確保に努める

実施内容

- ・八田原ダムや芦田川河口堰の適切な運用
- ・水利使用者相互間の水融通の円滑化

河川環境の整備と保全

●自然環境の保全・河川空間の利用

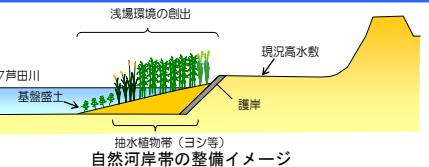
目標

■ふるさとの豊かな自然と歴史をはぐくむ芦田川に

- ・利用しやすい河川空間を整備するとともに、川らしい自然環境の創出を目指す

実施内容

- ・魚がのぼりやすい川づくり
- ・瀬と淵の保全・整備
- ・自然河岸帯の保全・整備
- ・水辺へのアプローチの向上
- ・かわまちづくりの推進
- ・八田原ダム周辺の地域づくりの推進



●水質保全

目標

■人々が集い、水にふれ、親しめる芦田川に

- ・魚類のへい死や異臭の発生、アオコ等の藻類の異常発生等によって、施設管理や空間利用に支障をきたさないように、良好な水環境の確保に努める

実施内容

- ・高屋川河川浄化施設の運転
- ・八田原ダムでの対策
- ・自然河岸帯の創出による自然浄化機能の向上
- ・芦田川河口堰の弾力的放流による水交換の促進



河川の維持管理

目標

■安全・安心な暮らしが持続可能な芦田川に

- ・常に芦田川の状態が把握できるように、適正かつ確実な維持管理を実施

実施内容

- ・芦田川の特性を踏まえた重点箇所や具体的な目標、実施内容、適正な頻度等を定めた河川維持管理計画の作成
- ・計画を評価・改善するサイクル型維持管理体系の確立
- ・河川の協働管理（地域との連携・協働）

5. 芦田川水系河川整備計画の概要 5-3. 主な整備予定箇所

主要な整備予定箇所と実施内容

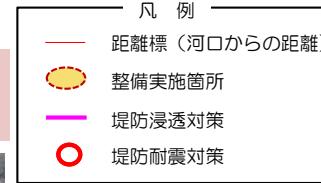
河道掘削等の整備箇所No	河川名	主要な箇所名	整備区間	主要な工種	対策の目的
					河積の確保
芦①	芦田川	草戸・水呑	2.8~8.2k付近	河道掘削	
芦②	芦田川	御幸・郷分・駅家	11.0~18.4k付近	河道掘削	
芦③	芦田川	新市・芦田	19.2~22.2k付近	河道掘削	
芦④	芦田川	中須	23.4~24.4k付近	河道掘削	
芦⑤	芦田川	土生・目崎・父石	27.8~30.6k付近	河道掘削・築堤・堰改築	

No	地区名	河川名	左右岸	区間
①	草戸地区	芦田川	左岸	6.2k~7.0k付近
②	坊寺・近田地区	芦田川	左岸	18.1k~18.8k付近
③	郷分地区	芦田川	左岸	19.1k~19.6k付近
④	中須地区	芦田川	左岸	23.6k~23.8k付近
⑤	高木・府川地区	芦田川	左岸	26.7k~27.3k付近
⑥	下山守地区	芦田川	右岸	15.4k~16.1k付近
⑦	相方地区	芦田川	右岸	22.9k~23.5k付近
⑧	川南地区	高屋川	左岸	4.3k~7.6k付近
⑨	中津原地区	高屋川	右岸	2.1k~4.0k付近
⑩	川北地区	高屋川	右岸	5.0k~6.7k付近

- 河道掘削を行い、整備目標流量を安全に流下させます。
- 整備にあたっては、浅場環境の創出やワンド・たまり等を保全するなど、地区に応じた環境への配慮を行います。



八田原ダム



芦⑤ 土生・目崎・父石地区



芦④ 中須地区



芦③ 新市・芦田地区



芦② 御幸・郷分・駅家地区



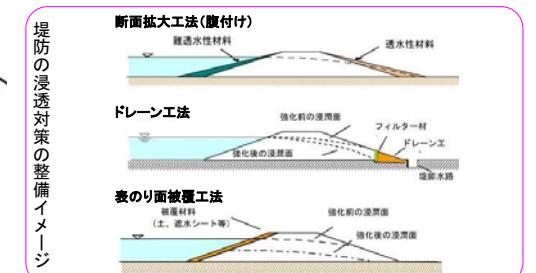
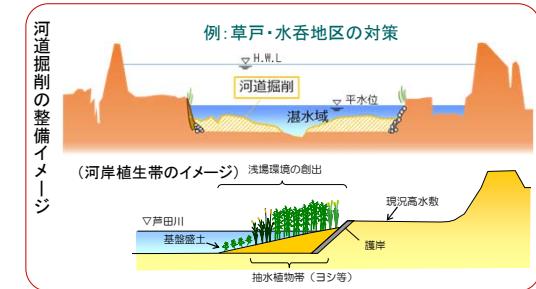
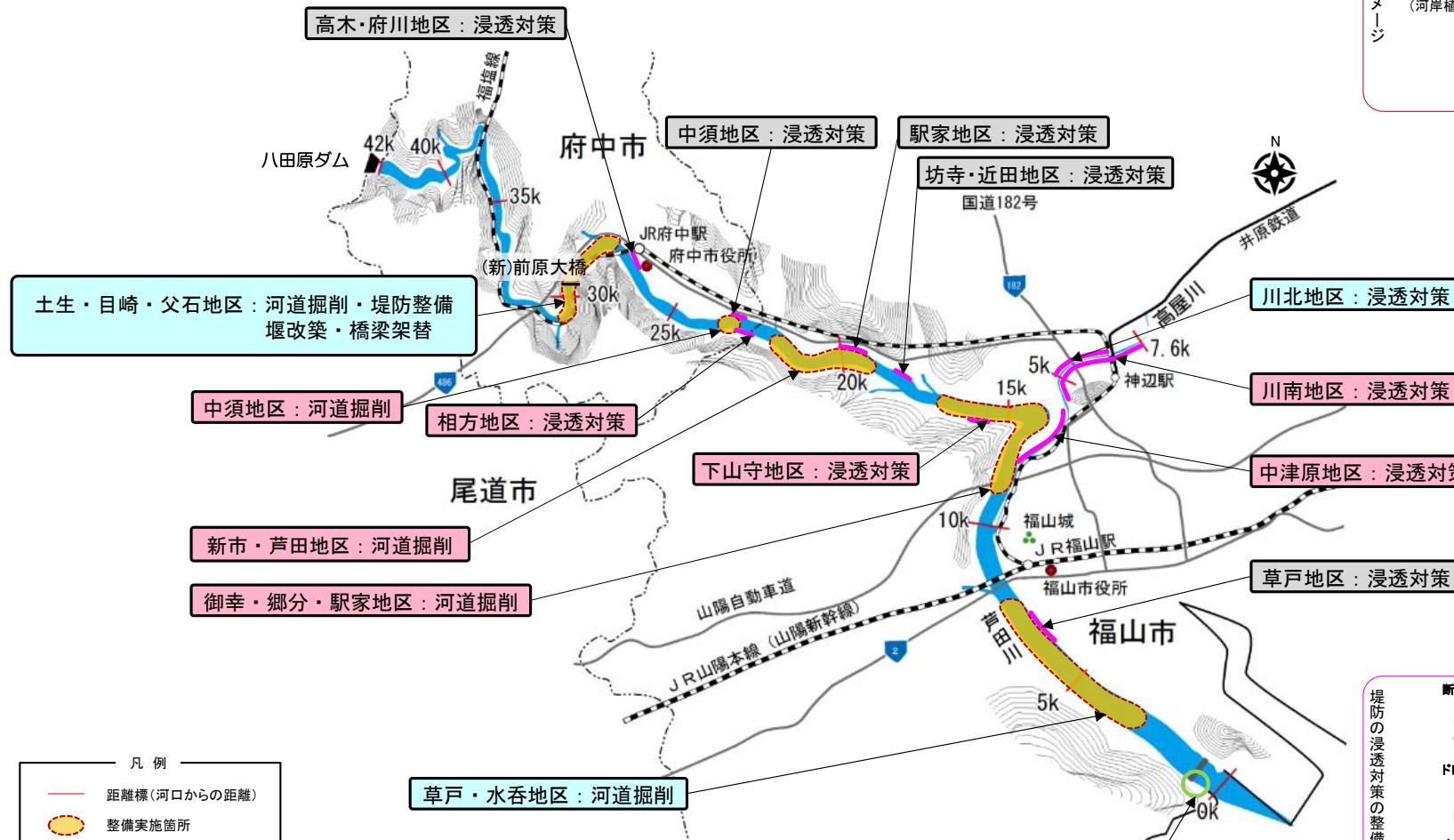
芦① 草戸・水呑地区

6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し

6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-1. 治水事業

- 河川整備計画に位置付けた治水対策について、河道掘削は下流から順次実施、平成30年7月洪水で氾濫被害が発生した父石地区では堤防整備と橋梁の架け替え ((新)前原大橋) 等を実施しており、浸透対策も同様に実施中。
- 引き続き、芦田川における歴史・文化や河川環境に配慮した河川の河道流下能力向上と堤防の安全性を向上させる対策を実施する。

治水事業の進捗状況



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-1. 治水事業

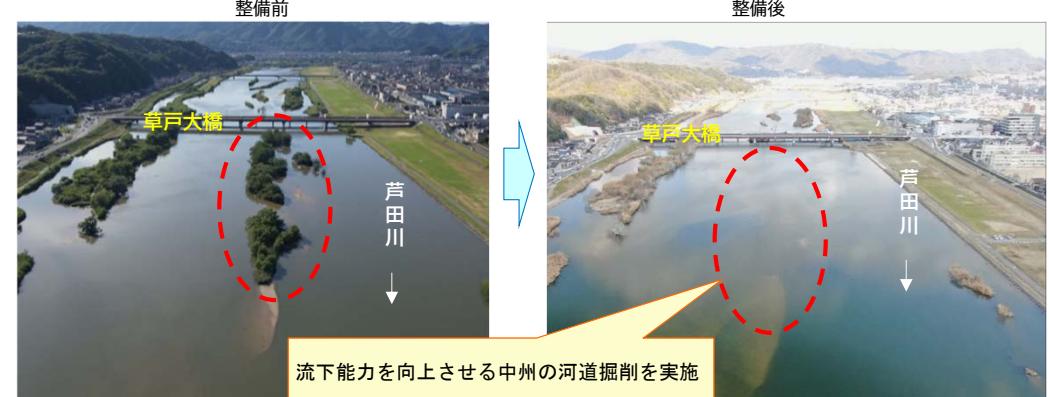
- 草戸・水呑地区では河道掘削を順次進めるとともに、父石地区では堤防整備・橋梁の架け替え ((新)前原大橋) 等を実施し、令和6年度末に旧橋撤去が完了。橋梁の開通前には、地元小学生を招いて舗装前の床版にお絵かきするイベントを開催(府中市主催)。
- 引き続き、河川の流下能力を向上させる河道掘削等、堤防の安全性を向上させる浸透対策を実施する。

治水事業の進捗状況

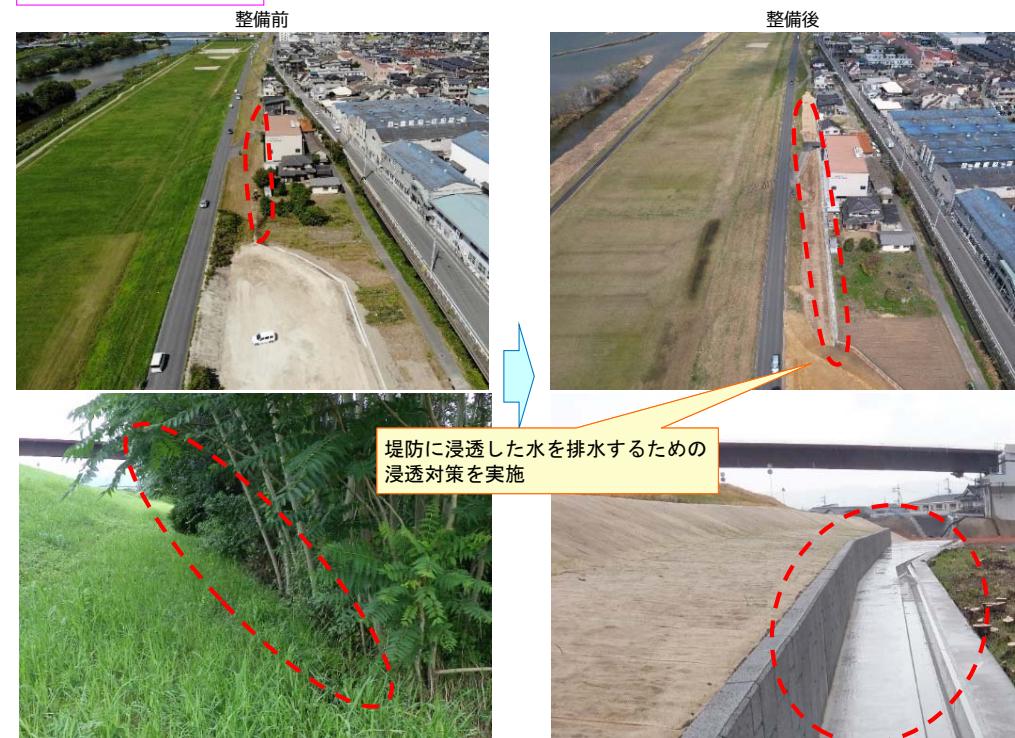
父石地区の堤防整備



草戸・水呑地区の河道掘削



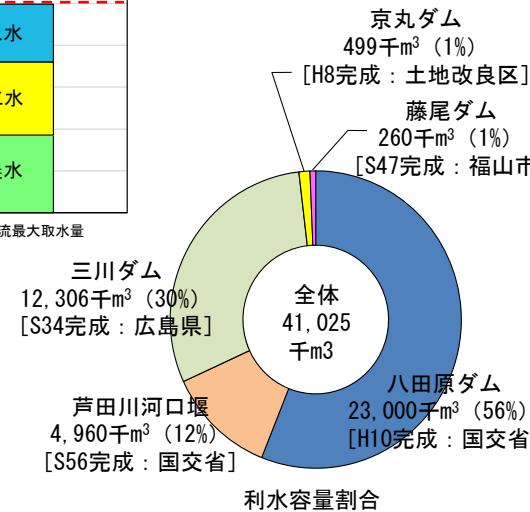
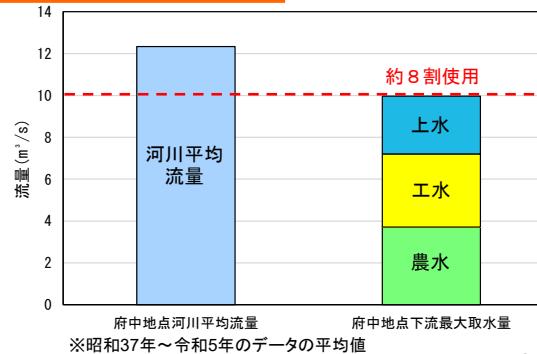
駅家地区の浸透対策



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-2. 水利用と渇水時の対応

- 芦田川水系では、上水、工水、農水等、水利用率が高く、河川流量の約8割を利用している。
- 昭和56年に芦田川河口堰、平成10年に八田原ダムなど利水補給施設を整備し、芦田川流域の安定的な水供給に努めている。
- 近年では令和5、6年において工業用水・農業用水の取水制限を伴う渇水が発生したものの、水利使用者間で渇水調整を行うことにより、市民生活等への影響を回避した。

河川水の利用状況



渇水の発生状況

芦田川の主な渇水被害

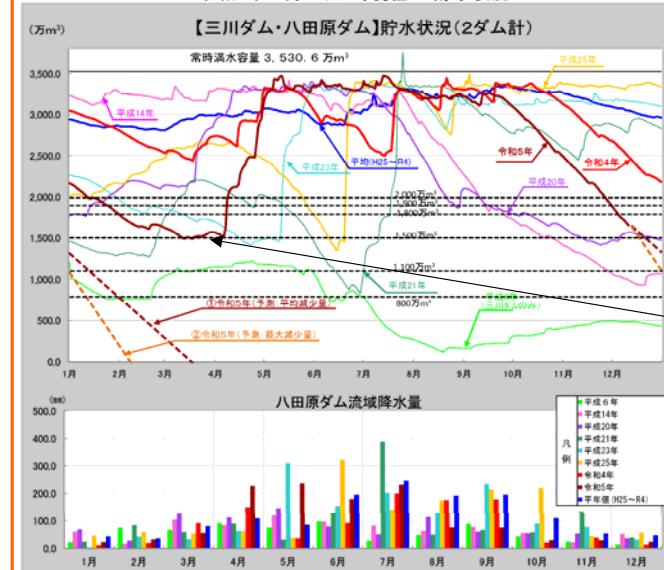
年	取水制限			関連ダム	
	最大制限率(%)	工業用水	農業用水	ダム名	最高貯水率
昭和42年				不明	三川ダム 11%
昭和44年				不明	三川ダム 14%
昭和52年	37	78	76	42日間	三川ダム 9%
昭和53年	40	86	50	50日間	三川ダム 0%
昭和57年	10	82	56	16日間	三川ダム 45%
昭和59年	10	40	30	不明	三川ダム 38%
昭和60年	9	42	42	不明	三川ダム 50%
昭和63年	9			38日間	三川ダム 67%
平成元年		9		5日間	三川ダム 47%
平成2年			17	45日間	三川ダム 43%
平成4年	全体で10%			18日間	三川ダム 48%
平成6年	30	100	90	301日間	三川ダム 10%
平成7年	10	60	50	220日間	三川ダム 20%
平成8年	5	50	50	38日間	三川ダム 39%
平成9年	30	40	40	104日間	三川ダム・八田原ダム 26%
平成20年	20	20	20	119日間	三川ダム・八田原ダム 40%
平成21年	30	30	30	52日間	三川ダム・八田原ダム 24%
平成23年	20	20	20	29日間	三川ダム・八田原ダム 40%
平成24年	20	20	20	10日間	三川ダム・八田原ダム 38%
令和3年	20	20	20	29日間	三川ダム・八田原ダム 37%
令和4年	20	20	20	88日間	三川ダム・八田原ダム 34%

※工業用水は中津原での制限率



芦田川流域の雨量・ダム貯水状況【速報値】

令和5年12月12日9時現在 貯水状況



2ダム(三川ダム・八田原ダム)の貯水容量が低減したことを踏まえ、渇水対応タイムラインに基づき取水制限を実施

ホームページ等で周知

芦田川流域の雨量・ダム貯水状況【速報値】(令和5年12月12時時点)

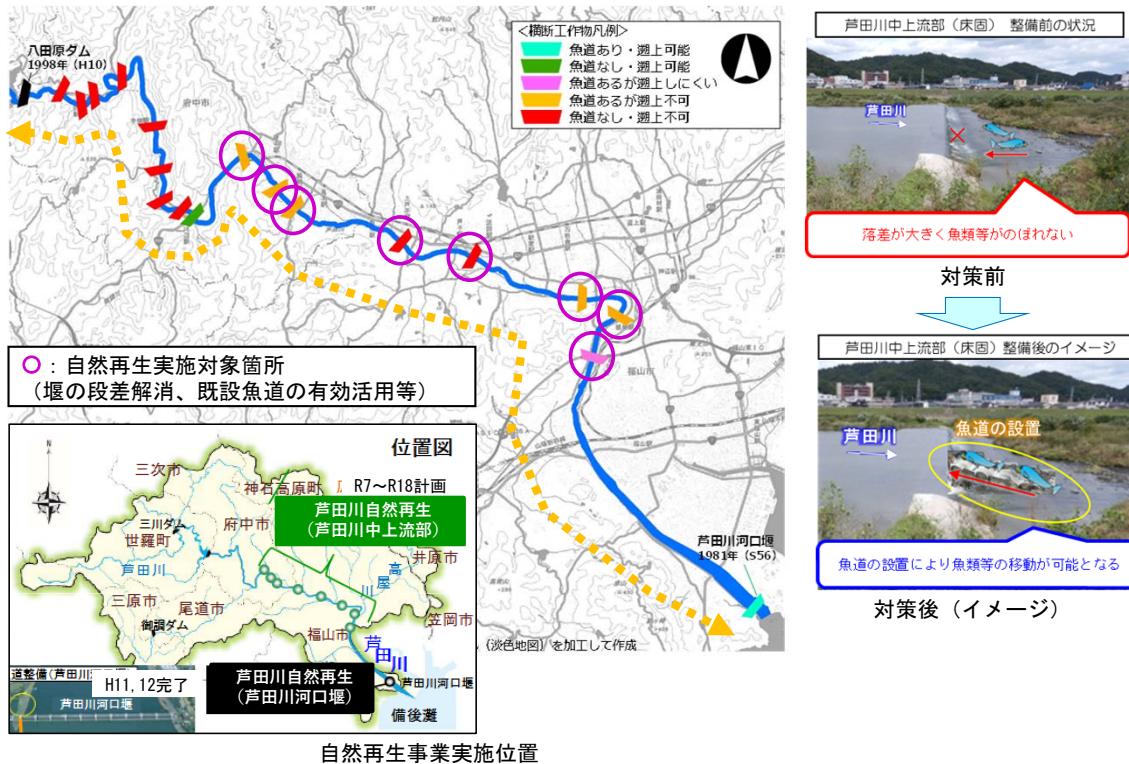


6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-3. 自然環境の保全

- 芦田川に生息する魚類・底生動物が遡上・移動しやすい、連続性のある河川環境を構築し、動植物の良好な生息・生育・繁殖環境の保全・創出を目指す、芦田川水系自然再生計画（実施期間は令和7～18年度）を令和6年3月に策定した。
- 当該計画に基づき、芦田川の縦断方向の連続性を確保するため、遡上を阻害している横断工作物の改良を行う等、アユ等の回遊魚が移動出来る生態系ネットワークの保全・創出について、施設管理者等とも連携し取り組んでいる。

自然再生計画に基づく縦断方向の連続性の確保

- 遡上阻害を引き起こしている横断工作物の改良により、芦田川の移動連続性を確保
- また、河道掘削にあたってはスライドダウン等により瀬や淵の連続性を確保

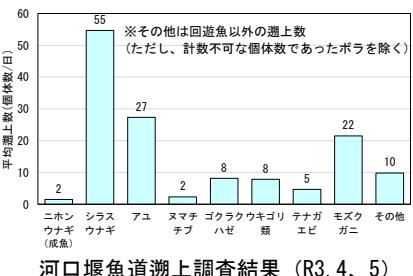
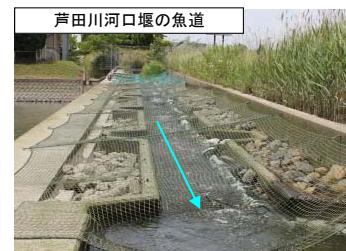


魚類等の遡上環境の改善

- 魚類等の遡上を阻害している横断工作物については、施設の改築時に関係機関と協力して、遡上降下環境の改善に努める

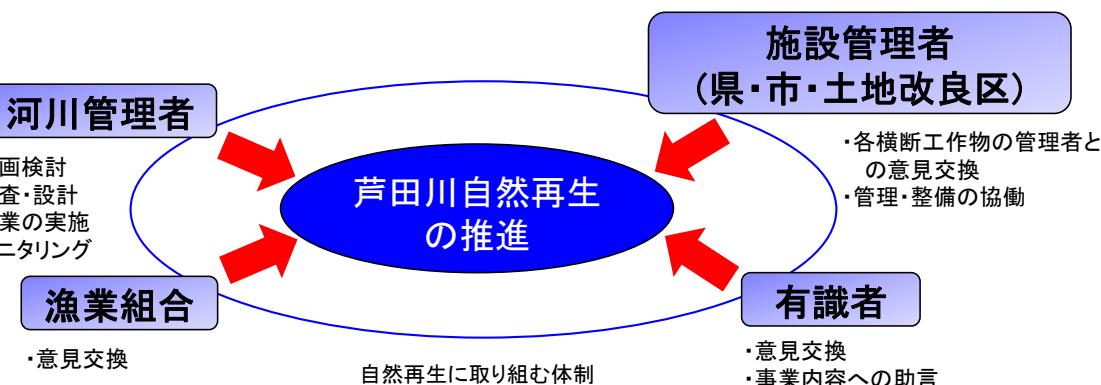


- 芦田川河口堰の魚道の遡上状況については、魚道の設置により、シラスウナギ、アユ、ウキゴリ類などの回遊魚や、モクズガニ、テナガエビなどの回遊性動物が移動（遡上）している



自然河岸帯の整備

- ヨシや水草等の生育する植生河岸帯を創出し、自然浄化機能による水質改善とあわせて、水生生物等の生息環境を創出



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-4. 河川空間の利用

- 芦田川の沿川市街地では、河川利用が盛んであり、福山市では「千代田地区かわまちづくり計画」に基づき、総合体育館に隣接する河川敷において、総合体育館と一緒に利用できる親水広場を国と連携して整備を行い、令和2年3月に完成した。
- 当該河川敷地の更なる利用促進のため、民間事業者等の利用を可能とする「都市・地域再生等利用区域」を令和4年2月に指定した。
- かわまち広場、総合体育館や公園とあわせた一体利用で、利活用の幅が広がることにより、利用者数が増加し、地域の活性化に寄与している。
- 今後、芦田川のさらなる利活用に向け、地元自治体と連携・協力し、かわまちづくりを推進する。

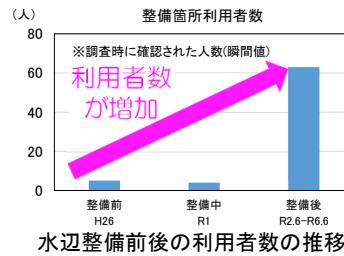
かわまちづくりの推進

- 千代田地区かわまちづくりとして、高水敷整正、階段護岸・スロープの整備、河川管理用通路や自転車歩行者用通路を整備
- 福山市が地域と連携して河川空間のオープン化に継続的に取り組むことで地域のエリア価値の向上等が見込まれることから、当該区域を都市・地域再生等利用区域として指定（令和4年2月）



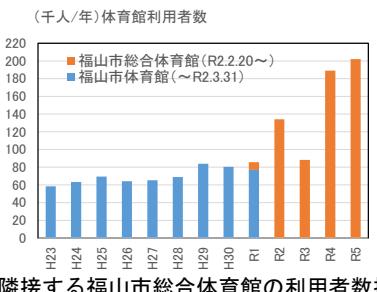
水辺整備前後の利用者数の推移

- 福山市と一体となった整備により利便性・安全性が向上し、多くの利用者がみられる
- 近年の水質改善により、芦田川かわまち広場周辺では毎年トライアスロン大会が開催されている



隣接する福山市総合体育館の利用者数推移

- 福山市総合体育館との一体的な利活用により、スポーツ、レクリエーション拠点として地域活性化に貢献している



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-4. 河川空間の利用

■八田原ダム周辺では、地域づくりの推進として、自然環境の保全と活用のための環境整備だけでなく、ダム水源地域ビジョンにより地域の活性化や地域連携、住民参加による地域づくりに取り組んでいる。

水源地域(世羅町)と連携したダムカードの作成

- 八田原ダムの水源地域である広島県世羅郡世羅町内に存在する5基のダム（国交省管理：八田原ダム、広島県管理：山田川ダム、農林水産省所管：三川ダム、目谷ダム及び京丸ダム）でダムカードを配布（一部、ダムでは以前より配布）
- 全国のダムマニアを始め、多くの方々に花とフルーツそして駅伝のまち世羅町に訪問し、ダムへの関心を高めていただくとともに水源地域がより一層賑わうことを期待



世羅町を巡ってダムカードをゲットしよう！

ダムカード5枚でダムマニア認定書（ブロンズ）ももらえるよ！

ダムカード配布場所



ダムカードの配布場所

ダム周辺でのイベントによる地域活性化

- 八田原ダムにおいて、令和7年7月27日（日）に「夢吊橋サマーフェスタ2025」を開催
- 「八田原ダムスタンプラリー」には100名以上の方々が参加
- 普段は入ることができない八田原ダム内部のゲート室や旧JRトンネル跡などを見学、楽しくクイズを解きながら八田原ダムのことをたくさん知っていただいた



チェックポイント1
～ダム天端～



チェックポイント2
～旧JRトンネル跡～



チェックポイント3
～常用放流設備ゲート室～



フォトフレームを
サマーフェスタ仕様に
装飾しました！

イベント前に
一齊清掃も
行ったよ！



～利水ゲート放流見学～



Thanks for visiting. 2025.7.27

- 高屋川の水質改善を目的とした高屋川浄化施設は、高屋川の水質が改善傾向にあること、施設の耐用年数を迎えたことなどから、令和3年3月末に完全停止したものの、その後の施設停止の水質への影響は確認されていない。
- 下流区間では、瀬戸川からの流入負荷の削減や河口貯水池内の環境改善を目的として整備した植生浄化施設について、継続してモニタリングを行い水質改善効果を確認している。
- 芦田川河口堰では、貯水池内の水交換の促進のため、定期的に弾力的放流を実施し、水質改善に寄与している。

高屋川河川浄化施設

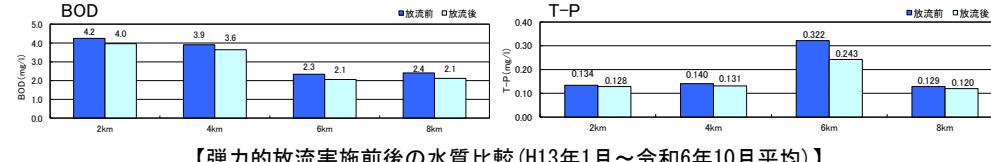
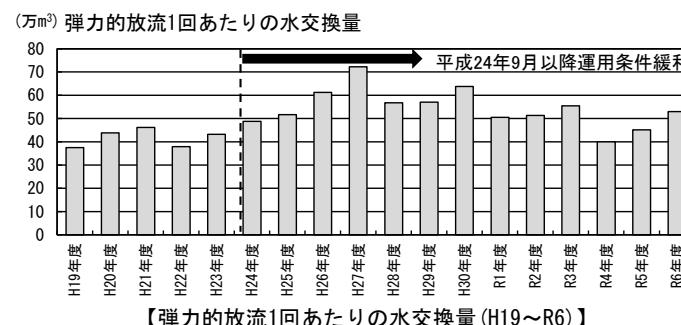
- 高屋川河川浄化施設は、芦田川河口堰貯水池内のT-P値を0.1mg/L以下に改善し、アオコなど富栄養化による水質悪化を防止することを目標として設計・計画
- リン除去方式として「凝集沈殿一急速ろ過法」を用い、平成13年4月より稼働開始していたが、水質が改善傾向になったこと、水質の改善に寄与する下水道整備が着実に進捗しており、今後も進捗が見込まれる事、浄化施設設置後20年となり耐用年数を迎えた事から令和3年3月末をもって運転を完全停止



高屋川河川浄化施設

芦田川河口堰の弾力的放流

- H23までの弾力的放流実績を踏まえ、H24.9に運用条件緩和を行ったことにより、1回あたりの弾力的放流による水交換量が増大
- 弾力的放流前後の水質の状況から、弾力的放流による貯水池内の水交換の促進に伴う貯水池内の水質改善が伺える



下流植生浄化

- 芦田川下流植生浄化はT-Pの目標除去率10%に対して、5～12%の水質浄化効果が得られている
- 引き続きモニタリングを実施し、浄化効果を確認



水質浄化施設（ウェットランド）の湿地環境と動植物

- ウェットランドでは、良好な湿地環境が形成され、タナゴ類、ナゴヤサナエ、オオヨシキリ等の生息環境となっている



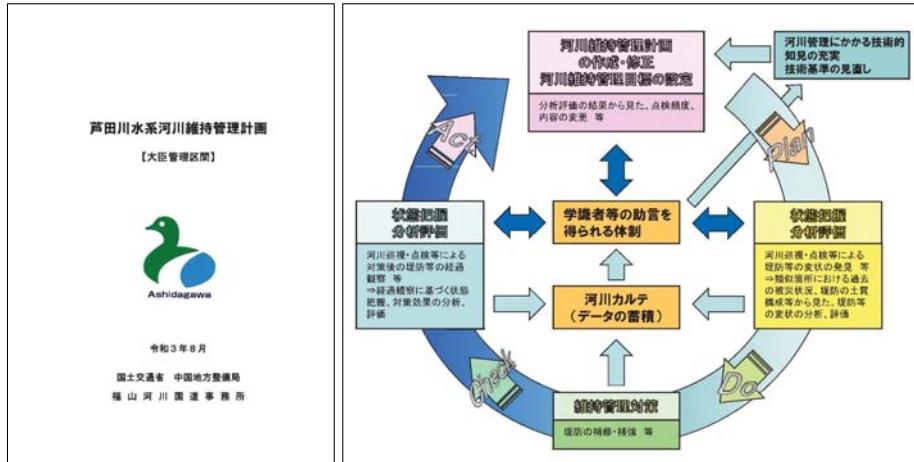
6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-6. 河川の維持管理等

■令和3年8月「芦田川水系河川維持管理計画【大臣管理区間】」を策定。

■河川巡視、河川管理施設の点検等を実施することにより、河道・河川管理施設等の機能を維持するための必要な対策を実施している。

河川維持管理計画に基づく維持管理

■効率的・効果的な維持管理の実施を目的として、目標や河川の状態把握の頻度や時期及び必要な対策及び今後の取り組み等について定めた計画に基づき維持管理を実施



芦田川水系河川維持管理計画(R3年8月)

河道の維持管理(河道内土砂の撤去、樹木の管理)

■芦田川右岸 21k470～21k600

河道掘削、樹木伐採



■高屋川右岸 6k600

早田堰周辺の堆積土砂の浚渫



堤防、護岸の維持管理

■芦田川右岸 29k300 堤防天端の舗装



排・取水門、排水機場、排水ポンプ等の維持管理

■芦田川左岸 12k600 三光寺樋門の無動力化



堤防、護岸の維持管理

■芦田川右岸 22k439～22k595 (新市地区) 低水護岸の整備



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し 6-7. 危機管理体制の強化（減災対策協議会）

- 平成27年9月関東・東北豪雨災害を契機とした「水防災意識社会再構築ビジョン」を踏まえ、地域住民の安全・安心を担う沿川の福山市、府中市、広島県、広島地方気象台、中国地方整備局で構成する「芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」を平成28年11月30日に設立。
- 激甚化・頻発化する水災害に対して、減災のための目標を共有し、ハード・ソフト対策を一体的、計画的に推進している。

減災対策の取組状況

- 減災対策に係る概ね5か年の目標

氾濫水が貯留する府中・福山市街地や、府中市上流の狭窄部の孤立化等の氾濫特性などをふまえた実効性のある防災・減災対策を推進し、「逃げ遅れゼロ」「社会経済被害の最小化」を目指す

水防災に関する説明会、出前講座を活用した講習会の開催

- 令和6年2月4日に講習会を開催し、防災リーダー33名が参加
- 芦田川の流域治水や防災情報の取得方法について紹介し、キキクルや川の防災情報を実際に操作した



- 令和6年5月22日に防災リーダーを対象に講習会を開催
- 芦田川の流域治水や防災情報の取得方法について紹介し、キキクルや川の防災情報を実際に操作した



【参加機関 構成メンバー】

福山市長、府中市長、広島県土木建築局長
気象庁広島地方気象台長、中国地方整備局福山河川国道事務所長
中国地方整備局八田原ダム管理所長

災害対策用機械等の操作訓練の実施

- 毎年出水期前に排水機場の操作訓練及び災害対策用機械（排水ポンプ車、照明車）の操作訓練を実施
- 職員、福山河川国道事務所災害応急対策協定業者などが参加

全体説明の状況



防災教育や防災知識の普及（学校の防災教育に対する支援）

- 令和3年10月26日に福山市立光小学校の5年生65名を対象に講習会を開催
- 「洪水からいのちを守るために」というテーマで、洪水の怖さや氾濫の形態、洪水に対する取組について紹介
- マイ・タイムラインの説明と教材を配布



6. 芦田川水系河川整備計画の進捗状況、見通し

6-8. 危機管理体制の強化（水害タイムライン）

- 大臣管理区域内で大規模災害が発生することを前提に、防災関係機関が連携し、災害時の状況を予め想定し、「いつ」「誰が」「何をするか」を、防災行動・その実施主体を時系列で整理した、芦田川水害タイムラインを令和元年8月に作成した。
 - 行政機関、交通機関、ライフライン、報道機関等の合計28機関で構成され、令和元年度の出水期から運用を開始し、より適切かつ効率的な防災行動のため、毎年、出水期前に読み合わせ、出水後に振り返りを行い、充実を図っている。

関係機関が連携した検討会の実施、水害タイムラインの運用等

- 平成30年7月豪雨を踏まえ、多機関連携による防災行動の見える化を目的とした「芦田川水害タイムライン」を令和元年度出水期から運用
 - 每出水期後に関係機関が出水対応を振り返り、改善等を実施

水害タイムラインの作成期間 【令和元年度出水期まで】

被災シナリオを基に参加機関の重要行動を抽出し、その具体化と共有に注力、関係機関の特徴を反映
合計5回の会議を開催し水害タイムラインを作成

令和元年出水期から芦田川水害タイムラインを試行運用

出水時の運用、ふりかえり、改善し、継続的な活用で
スパイラルアップし、タイムラインを育成

水害タイムラインの育成期間 【令和元年8月以降】

令和7年度現時点までに、合計12回の会議を開催し
水害タイムラインを育成



■ 芦田川水害タイムラインの令和6年度防災対応の振り返りワーキング (令和7年1月15日)



主な内容

- ✓ 今年度の防災対応(出水対応)における水害タイムラインの活用状況について
 - ✓ 住民・職員等への水害に関する周知・啓発の実施状況について
 - ✓ 予測水位に基づく洪水予報発表時のタイムラインの運用方法について
 - ✓ 各機関の防災計画等の変更状況・タイムラインへのについて

芦田川水害タイムライン 令和7年度版【ダイジェスト版】

- 芦田川（現地）、芦田川見る見る館、教育施設等において、小中高校生をはじめ、広く一般に河川環境や防災に関する様々な広報・啓発活動を実施し、芦田川を知り、親しみを持っていただけるよう取り組んでいる。

河川情報の共有化

- 「芦田川見る見る館」（国管理）において、水質浄化事業の必要性や役割等の環境に関する内容を地域の小学生に説明。年間20日間の休日開館は一般公募によりNP0ほんわかで開館を実施
- 直近5年間（R2～R6年度）における「芦田川見る見る館」の来館者平均は、782人で、昨年度は平均を上回った（R6年度：842人）



小学生を対象とした環境学習（令和6年7月）



小学生を対象とした水質調査テストの説明（令和7年8月）

- 地元小学生等を対象として水質関係や芦田川に生息する魚などと触れ合う環境学習を実施
- 福山市、府中市の教育委員会と連携し、小中学校の総合学習の時間等に芦田川の歴史、環境、防災等について継続的に学習いただく仕組みを調整中
- 整備が完了したかわまち広場（千代田地区）や今後の自然再生事業の整備箇所において、芦田川の歴史・文化・環境等の学習を行うなどの工夫を行う



芦田川山手橋付近



芦田川ちやぶちやぶらんど

小学生等を対象とした水生生物調査・観察会

河川に関する学習支援

- 直近では、概ね年間2～5回程度、地域の小中学生や防災リーダー及び自治体職員に対して、河川整備や洪水への備え、水質保全等に関する取り組みを説明する出前講座を実施



防災リーダーに対する出前講座（令和6年5月22日）



小学生に対する出前講座（令和7年6月22日）

- JFEスチール西日本製鉄所福山が主催した「みんなの防災体験＆展示会」に参加し、浸水体験が出来るVRや降雨体験機を使用し、防災の「自分事化」を考えてもらうきっかけを広めた



地元企業が主催した防災イベントに参加した防災普及活動（令和6年10月17、18日）

7. 河川整備に関する新たな視点

7. 河川整備に関する新たな視点 7-2. 芦田川水系流域治水協議会

- 近年の激甚化・頻発化する水害に対応するため、芦田川水系では流域治水協議会を令和2年7月31日に設立し、流域関係機関が協働して推進する「芦田川水系流域治水プロジェクト」を令和3年3月に公表、更に、気候変動の影響による水災害リスクの増大を踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させるために「芦田川水系流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月に公表した。
- 毎年、関係機関でプロジェクトの取り組み状況を共有し、流域治水の進捗の確認を行いながら取り組みの充実を図る。

芦田川流域治水協議会

芦田川流域治水協議会 開催一覧

名称	開催日
第1回 芦田川流域治水協議会	令和2年9月30日
第2回 芦田川流域治水協議会	令和3年3月15日（書面）
第3回 芦田川流域治水協議会	令和4年3月16日
第4回 芦田川流域治水協議会	令和5年6月9日
第5回 芦田川流域治水協議会	令和6年3月1日（書面）
第5回 芦田川流域治水協議会	令和6年7月3日
第7回 芦田川流域治水協議会	令和7年6月6日

芦田川流域治水協議会 参加機関と委員

（委員）

- ・福山市長
- ・府中市長
- ・世羅町長
- ・広島県 農林水産局 林業課長
- ・広島県 農林水産局 森林保全課長
- ・広島県 農林水産局 農業基盤課長
- ・広島県 東部建設事務所長
- ・広島県 東部建設事務所三原支所長
- ・農林水産省 中国四国農政局 中国土地改良調査管理事務所長
- ・林野庁 近畿中国森林管理局 広島森林管理署長
- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 広島水源林整備事務所長
- ・気象庁 広島地方気象台長
- ・国土交通省 中国地方整備局 福山河川国道事務所長
- ・国土交通省 中国地方整備局 八田原ダム管理所長



最近の開催状況（第7回協議会）

○開催概要

- ・日時：令和7年6月6日（金）14:00～
- ・会議：対面+WEB会議方式
- ・出席：福山市、府中市、世羅町、広島県、農林水産省 林野庁、森林研究・整備機構、気象庁、国交省
- ・議事：
 - 規約の改正について
 - 芦田川流域治水協議会について
 - 芦田川水系流域治水プロジェクト2.0について
 - 流域治水の具体的な取り組み
 - 流域治水及び流域治水プロジェクトの広報について【協力依頼】
 - 情報提供



WEB会議の状況



各機関から流域治水の取組状況を紹介

協議会に先立ち
福山河川国道事務所
久富所長より挨拶



○流域自治体からのコメント

・流域治水プロジェクトの当初計画の短期計画が徐々に完了してきており、プロジェクトの深化のためには、新たな対策も考える必要がある。今後も引き続き市民の安心安全のため流域治水プロジェクトを着実に前に進めていきたい。
(福山市)



福山市建設局長 市川 清登

・豪雨災害も激甚化の一途を辿っており、今まで無かった時期に大雨の災害が起きるなど、油断を許さない状況が続いている。ハード・ソフト面の対策に取り組むにあたり、関係機関の皆様との協力が必須であるため、今後ともお願ひしたい。
(府中市)



府中市長 小野 伸人

・八田原ダムより上流の部分として、上流の責任をしっかりと果たしていきたい。また、流域の山の管理や放棄地等の管理など、出水前の対策について取り組みを行っていきたい。
(世羅町)



世羅町長 奥田 正和

7. 河川整備に関する新たな視点

7-3. 芦田川水系流域治水プロジェクト

■気候変動の影響による降雨量の増大に対して、早期に防災・減災を実現するため、流域のあらゆる関係者による、様々な手法を活用した対策の一層の充実を図る「流域治水プロジェクト2.0」を令和6年3月に策定し、取り組みを推進している。

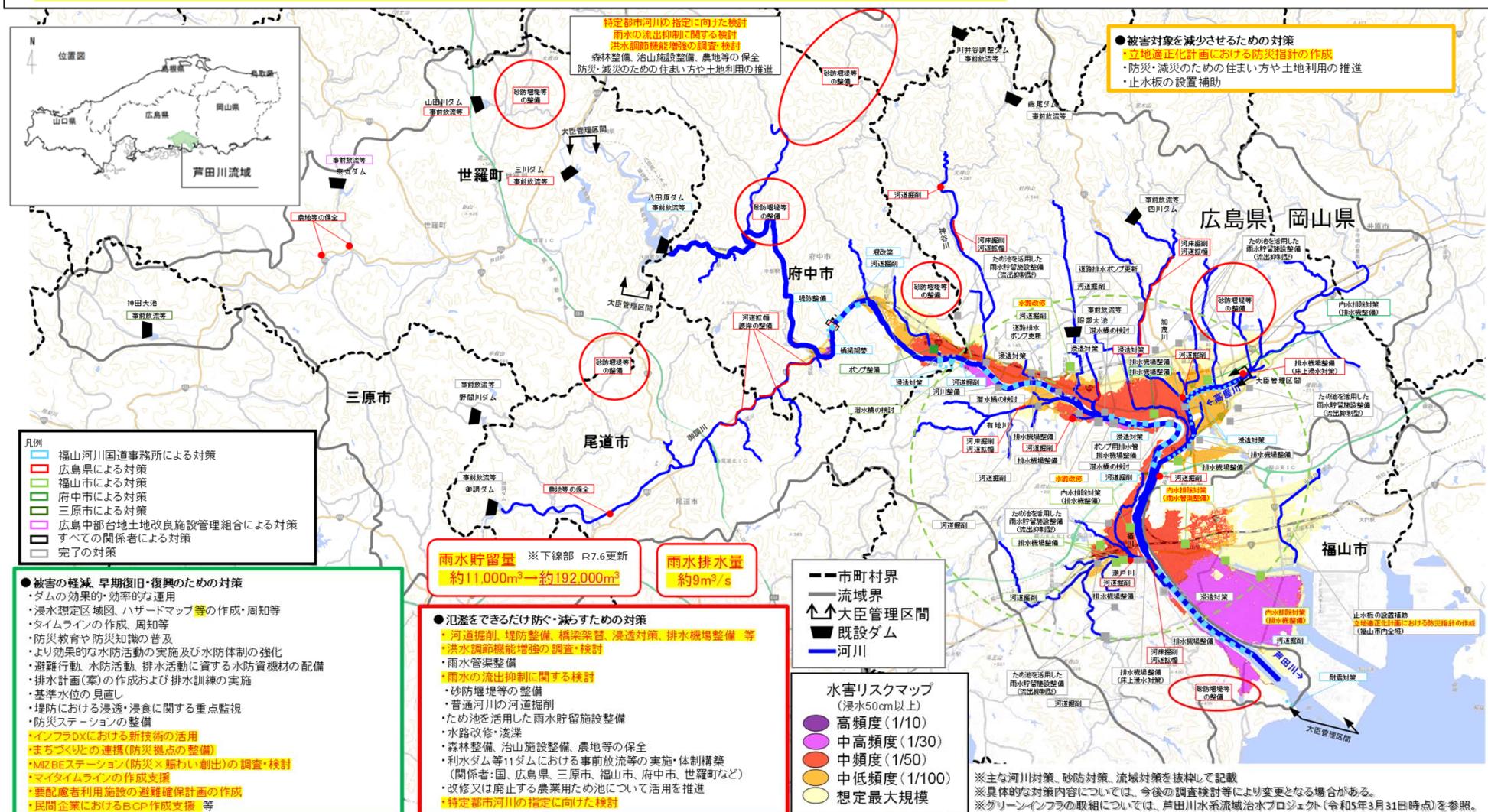
芦田川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～備後地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～

R6.3更新(2.0策定)



- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したこと等を踏まえ、芦田川水系においても以下の取り組みを一層推進していくものとします。更に大臣管理区間においては、将来の気候変動による降雨量の増大及び再度災害防止の観点等を考慮し、戦後最大洪水である平成30年7月豪雨と同規模の洪水（昭和20年9月洪水等に対し、2°C上昇時の降雨量増加を考慮した雨量1.1倍となる規模の洪水）が流下する場合においても、家屋浸水を防止し、流域における浸水被害の軽減を図るとともに、多自然川づくりを推進します。あわせて、迅速かつ適切な情報収集・提供体制を構築し、ホットラインを含めた確実な避難行動に資する情報発信などの取り組みを実施し「逃げ遅れゼロ」を目指します。
 - 芦田川は、一度氾濫が起ければ、下流低平地に広範囲に浸水被害が広がりかつ長期化する特性を有しており、平成30年7月豪雨においても広範囲に浸水被害が発生したことを踏まえ、洪水時の水位を下げる河道掘削や内水被害を軽減する排水機能強化などの事前防災対策を進めていますが、気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法の指定に関する検討を含め、更なる治水対策を推進します。



7. 河川整備に関する新たな視点 7-3. 芦田川水系流域治水プロジェクト

■流域内の自然環境が有する多様な機能（グリーンインフラ）も活用し、生態系ネットワークの形成や自然再生、川を活かしたまちづくり（かわまちづくり）等の取り組みにより、水害リスクの低減に加え、魅力ある地域づくりを推進している。

芦田川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～備後地域の産業と暮らしを守る流域治水対策の推進～



●グリーンインフラの取組

『ふるさとの豊かな自然と歴史をはぐくむ芦田川らしい自然環境の保全・再生』

- 芦田川は備前地方の中心に位置し、豊かな自然環境と悠久の歴史を有する河川であり、中流から上流では瀬と淵が見られ、魚類等の良好な生息・生育・繁殖環境となっているほか、下流では広大な水面の広がる河口堰貯水池や干潟など特徴ある景観を有するなど、次世代へ引き継ぐべき豊かな自然環境が多く存在しています。
 - 芦田川水系では、河道掘削、堰改築等にあたり、清浄で多様な生物がみられるような川らしい自然環境の保全・再生を目指し、今後概ね30年間で淵や河畔林の保全、浅場環境や多様な水際環境の創出、魚類の遡上・降下環境の改善を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。



7. 河川整備に関する新たな視点

7-4. 流域治水の推進（流域治水プロジェクト）

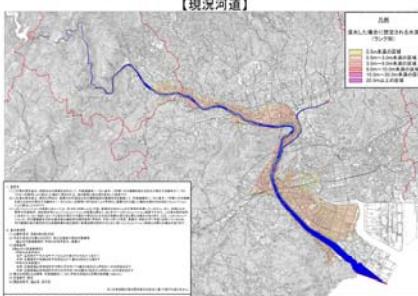
- 水害リスク情報の充実（様々な外力規模での浸水が想定される範囲）や当面5年間（短期）の河川整備による水害リスクの低減効果について、土地利用や住まい方の工夫の検討及び防災まちづくりの検討等、流域治水の推進に向けた事業効果の見える化を実施。
- 流域治水プロジェクトに基づき、国、県、市町等の流域のあらゆる関係者が協働し、引き続き、地域の安心・安全のために取り組む。

水害リスクマップの公表

芦田川水系 国管理河川の浸水想定図(1/10規模降雨)
【現況河道】



芦田川水系 国管理河川の浸水想定図(1/50規模降雨)
【現況河道】



芦田川水系 国管理河川の浸水想定図(1/30規模降雨)
【現況河道】

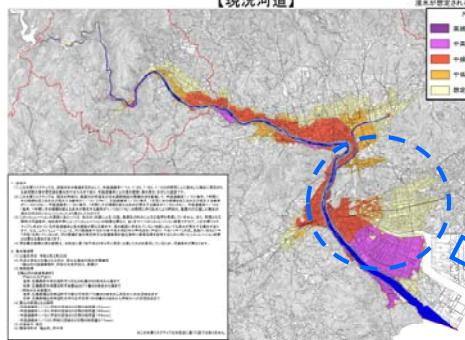


芦田川水系 国管理河川の浸水想定図(1/100規模降雨)
【現況河道】

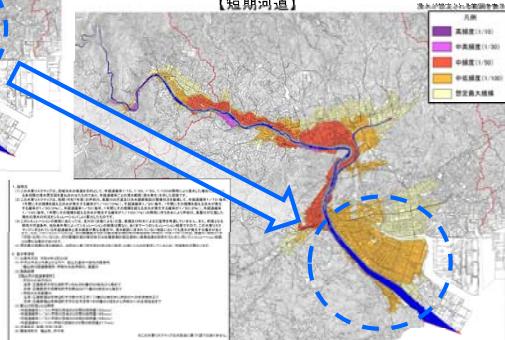


多段階浸水想定図（例：現況河道）令和4年3月公表

芦田川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ
【現況河道】



川水系 国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ
【短期河道】



水害リスクマップ（上：現況河道、下：短期河道）令和4年3月公表

流域治水の取組例

【福山市】

雨水貯留施設整備 流出抑制型瀬戸池



対策前



対策後

水防体制の強化

【府中市】

タイムラインの作成・周知等 防災教育や防災知識の普及



(河面町)



(南小学校)



(府中市消防大会)

【世羅町】

世羅町伊尾小谷地区防災研修会



7. 河川整備に関する新たな視点 7-5. 流域治水の推進（流域治水の広報）

- 関係機関が流域治水や防災について防災教育や防災講座、ラジオ放送、イベントのパネル展示等を通じて広報を実施しているが、地域住民の行動に繋がる「自分事化」の推進を目指して、より効果的な広報について取り組む。

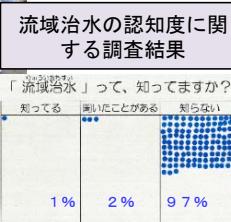
流域治水を周知するための様々な取組

ラジオ放送

- 流域の安全・安心に寄与するため、FM放送を通じて、リアルタイムで流域治水に関する情報を多数の住民に提供
 - FM放送のリスナーより、防災関係出前講座の問い合わせがあり、web出前講座を実施



イベントパネル展示



JFEみんなの防災(R6. 10. 17、18)

SNSでの発信

- 継続的に川の防災情報・キキクル・他流域治水の取り組み内容の発信や関係機関の投稿をリポストすることで不特定多数への周知



流域治水庁報リーフレットの配布

- 「流域治水の自分ごと」に繋がるリフレットを作成し、流域治水協議会及び関係機関のウェブサイトに掲載（今後出前講座や防災イベントでも配布予定）



防災学習webサイト掲載

- 防災学習の機会の提供に向けて、芦田川流域治水協議会のwebサイトに各機関で取り組まれている既存の防災関係の出前講座などを掲載

芦田川流域治水協議会ウェブサイト

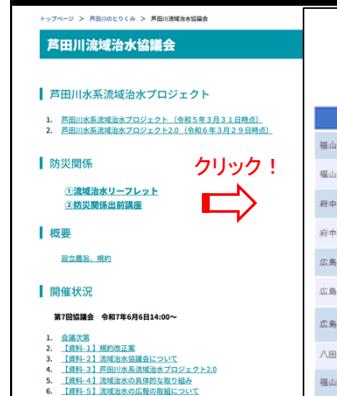


廣報誌

- 流域治水プロジェクトの取組み内容について、国・県・市の浸水対策の実施内容を紹介する広報ふくやま（R6年7月）に掲載



広報ふくやま (2024年7月号)



芦田川流域治水協議会 出前講座

流域治水協議会の関係機関の防災に関する出前講座です。
お気軽にお問合せ下さい。

種別名	出勤履歴の内容	対象	連絡先
福山市唐津河川課	ライフライン防災教室	市内小学生 (毎年2回程度を予定)	084-928-1525
福山市唐津河川課	防災教室	小中学生	084-928-1228
府中市	防災について 遊闘・備2	府中市内 (小学生・中高生・一般)	教育政策課 (0847-44-9023)
府中市	マイ・タイムラインを作りましょう！	府中市内 (小学生・中高生・一般)	教育政策課 (0847-44-9023)
広島県河川課	ひろしま防災前講座（洪水への基礎的な学習）	小学生	危機管理課ひろしまで減災講習課 (082-513-2781)
広島県河川課	ひろしま防災前講座（洪水について）	小学生	危機管理課ひろしまで減災性講課 (082-513-2781)
広島地方気象台	気象や地震等に関する知識の普及	東内の防災関係機関、学校、市民団体等	https://www.data.jma.go.jp/hi_riskoma/kengaku.html
八田原ダム管理所	ダムの管理	一般（広島県内）	八田原ダム管理所 (0847-24-0490)
福山河川国道事務所	水災害への取り組み	芦田川（国直轄区間主体）	084-923-2628（流域内水課）

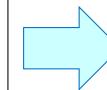
8. 点検結果のまとめと今後の進め方

8. 点検結果のまとめと今後の進め方

点検結果のまとめ

【流域の社会情勢の変化】

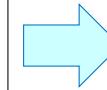
- 芦田川流域の社会情勢（人口及び世帯数、土地利用等）に、大きな変化はない。
- 河川整備計画（変更）策定以降、目標流量を上回る洪水の発生はなく、令和3年8月出水では河川改修効果を確認。
- かわまちづくりとして整備した施設等を活用した河川利用が進んでいる他、水質改善の取り組みにより環境基準に近い値まで改善。



見直しを必要とするような変化は生じていない

【地域の意向】

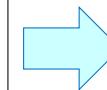
- 関係自治体（福山市、府中市）からは、引き続き事業促進に対する要望がある。
- 河道内の樹木伐採、河川清掃、河川環境学習等に関して、市民、環境団体等との連携を継続的に実施しており、今後も引き続き継続していく。



見直しを必要とするような変化は生じていない

【事業の進捗状況、見通し】

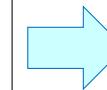
- 下流域の河道掘削や堤防の質的強化（浸透対策）、父石地区の堤防整備及び（新）前原大橋の架け替え等が順次実施され、着実に事業が進捗している。
- 今後も引き続き、下流域の河道掘削、父石地区の改修事業を着実に進めるとともに、魚がのぼりやすい川づくりやかわまちづくりについても関係機関と調整しながら実施していく。
- また、「芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」のもと、関係機関と防災・減災のための目標を共有しながら、ハード・ソフト対策を一体的に実施しており、今後も引き続き継続していく。



引き続き事業を推進する

【河川整備に関する新たな視点】

- 「流域治水プロジェクト2.0」に基づき、流域のあらゆる関係機関と協働し、流域治水の取り組み状況に関する進捗の確認等を行いながら取り組みの充実を図っており、今後も引き続き継続していく。
- また、流域治水や防災を地域住民の行動につながるよう、「自分事化」の推進に向けた取り組みについても引き続き継続していく。



引き続き事業を推進する

点検のまとめ

- 芦田川水系河川整備計画に定められた河川整備が計画的に進捗している。
- 「芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」のもと、関係機関と防災・減災のための目標を共有しながらハード・ソフト対策を一体的に実施している。
- 流域治水の観点から、あらゆる関係機関と連携、協働し、流域全体で水災害を防止、軽減するため「芦田川水系流域治水プロジェクト2.0」を推進している。

今後の進め方

- 引き続き、芦田川水系河川整備計画に基づき河川整備を実施するとともに、関係機関と連携して「芦田川水系大規模氾濫時の減災対策協議会」・「流域治水プロジェクト2.0」の取り組みを一層加速させる。